

インフルエンザ罹患に伴う 異常行動研究

2011年3月31日までのデータ取りまとめ
2010/2011シーズン報告

平成22年度厚生労働科学研究費補助金
医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業
「インフルエンザ様疾患罹患時の異常行動の情報収集に関する研究」
研究代表者 国立感染症研究所 岡部信彦

研究班

研究代表者

- 岡部信彦（国立感染症研究所感染症情報センター長）

研究分担者（五十音順）

- 大日康史（国立感染症研究所感染症情報センター主任研究官）
- 谷口清州（国立感染症研究所感染症情報センター第一室室長）
- 宮崎千明（福岡市立西部療育センター長）
- 桃井真里子（自治医科大学小児科学教授）

報告の内容

- インフルエンザ2010／2011シーズン
- 調査概要
- 重度の分析
- まとめ

インフルエンザ 2010／2011シーズン

図1.インフルエンザ患者報告数

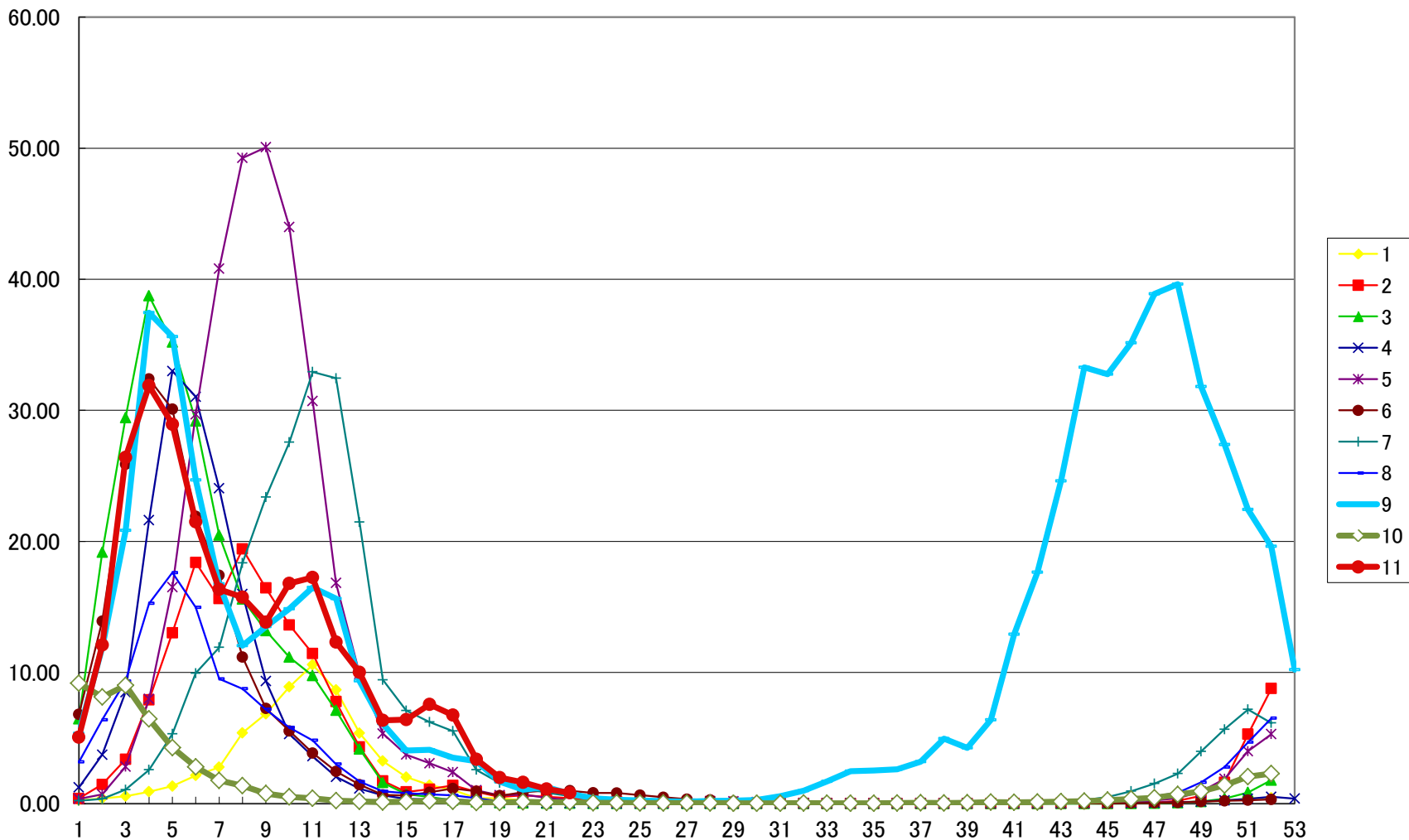


図2.年齢別インフルエンザ 患者報告数

2010年第36週～2011年第22週インフルエンザ累積の推計受診患者数年齢群別割合

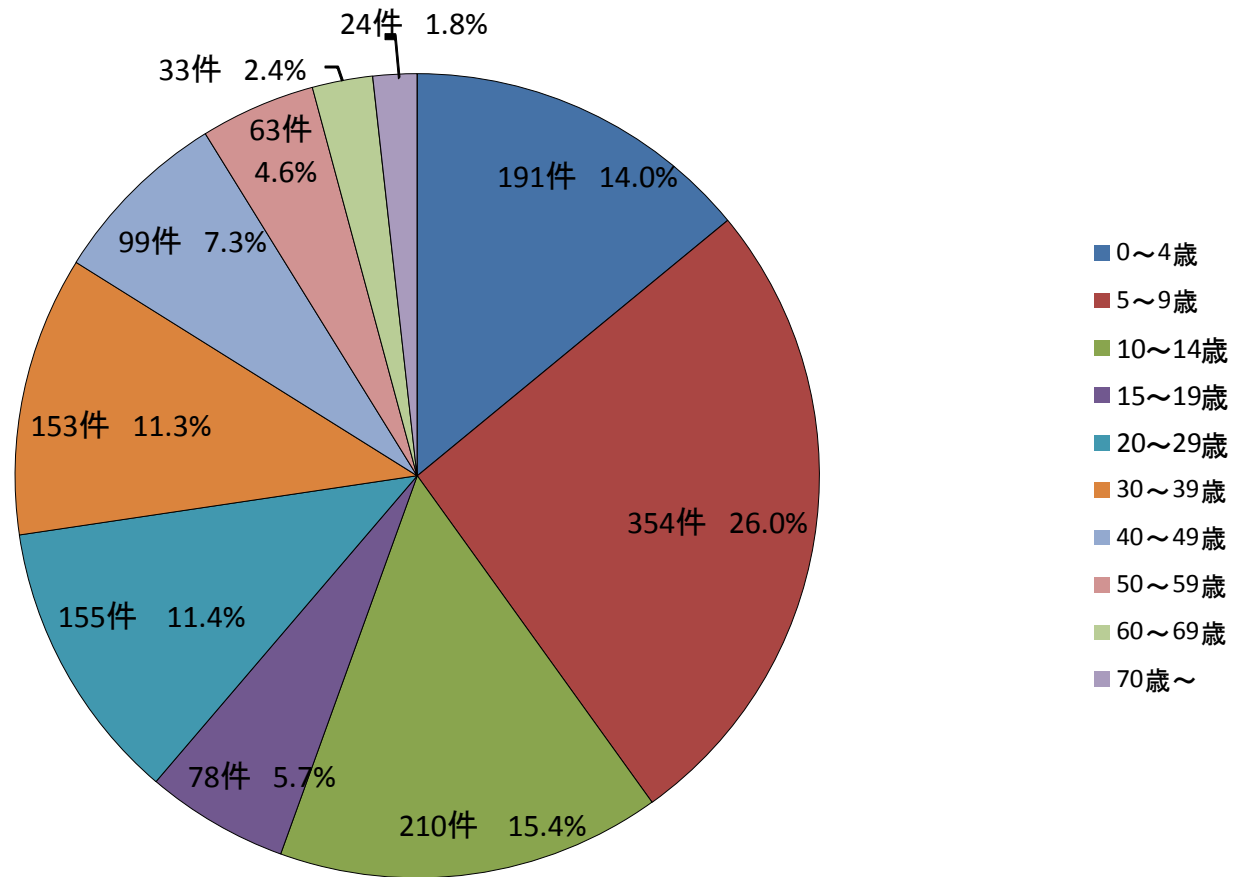
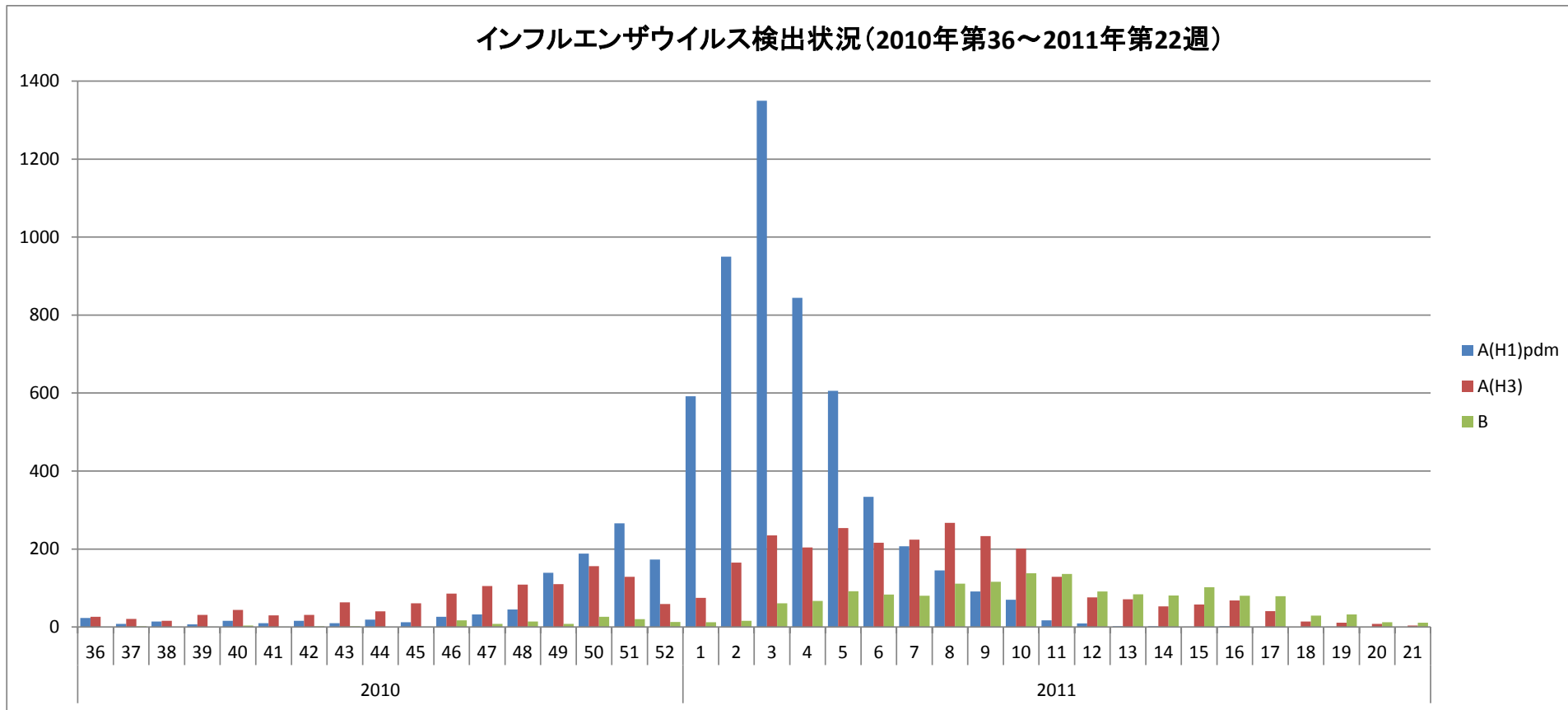


図3. 型別インフルエンザウイルス 分離の検出報告数



調査概要

調査概要

- 重度の異常な行動に関する調査（重度調査）
 - すべての医療機関
 - 2006／2007シーズン：後向き調査
 - 2007／2008シーズン：前向き調査
 - 2008／2009シーズン：前向き調査
 - 2009／2010シーズン：前向き調査
 - 2010／2011シーズン：前向き調査
- 軽度の異常な行動に関する調査（軽度調査）
 - インフルエンザ定点医療機関
 - 2007／2008シーズン：前向き調査
 - 2008／2009シーズン：前向き調査
 - 2009／2010シーズン：前向き調査
 - 2010／2011シーズン：前向き調査

調査概要（重度）

- 調査依頼対象：すべての医療機関
- 報告対象：インフルエンザ様疾患と診断され、かつ、重度の異常な行動※を示した患者
 - ※飛び降り、急に走り出すなど、制止しなければ生命に影響が及ぶ可能性のある行動
- 報告方法：インターネット　又は　FAX

インフルエンザに伴う異常な行動に関する報告基準

- インフルエンザ様疾患と診断され、かつ、**重度**の異常な行動を示した患者
- インフルエンザ様疾患
 - 臨床的特徴（上気道炎症状に加えて、突然の高熱、全身倦怠感、頭痛、筋肉痛を伴うこと）を有しており、症状や所見からインフルエンザと疑われる者のうち、下記のいずれかに該当する者
 - 次のすべての症状を満たす者①突然の発現、②高熱（38℃以上）、③上気道炎症状、④全身倦怠感等の全身症状
 - 迅速診断キットで陽性であった者
- **重度の異常な行動**
 - 突然走り出す
 - 飛び降り
 - その他、予期できない行動であって、制止しなければ生命に影響が及ぶ可能性のある行動

重度の分析

図4-1.異常行動（重度）の発熱週と発生動向調査

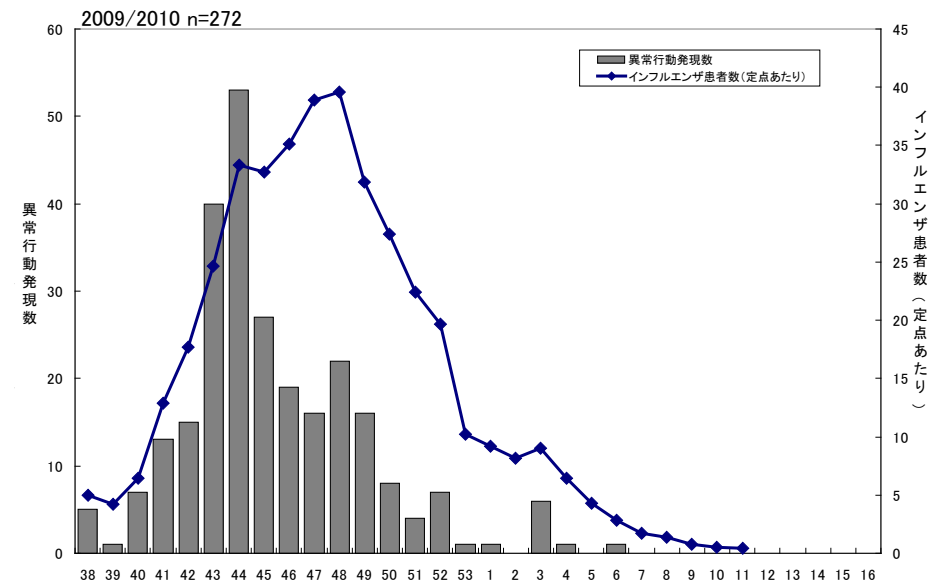
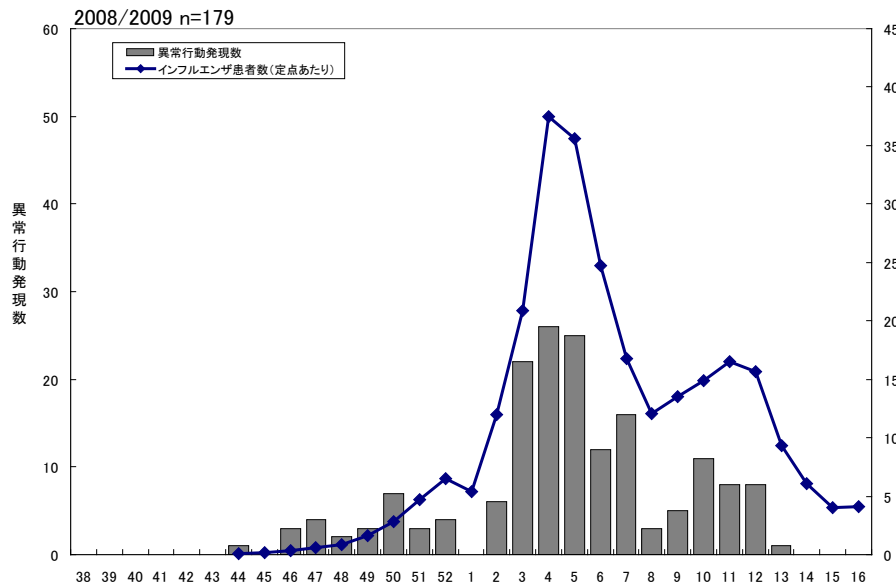
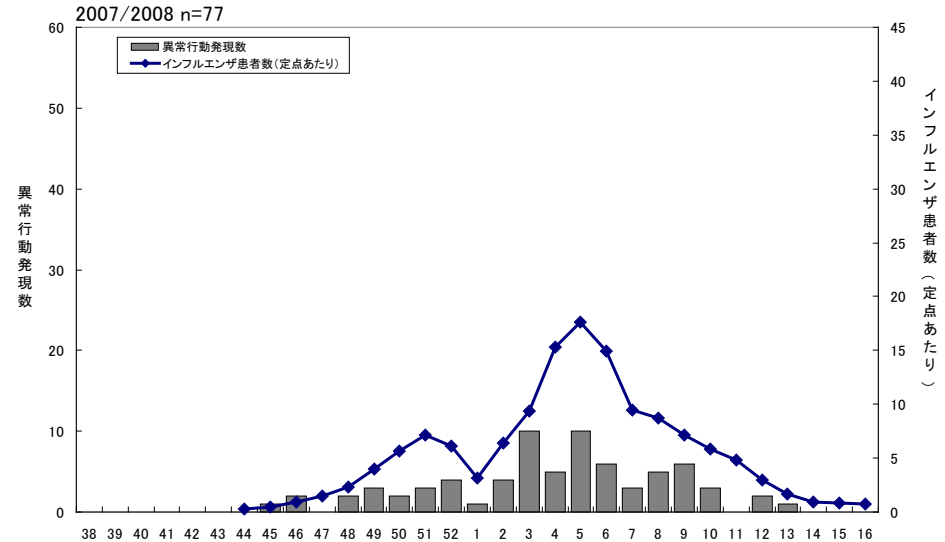
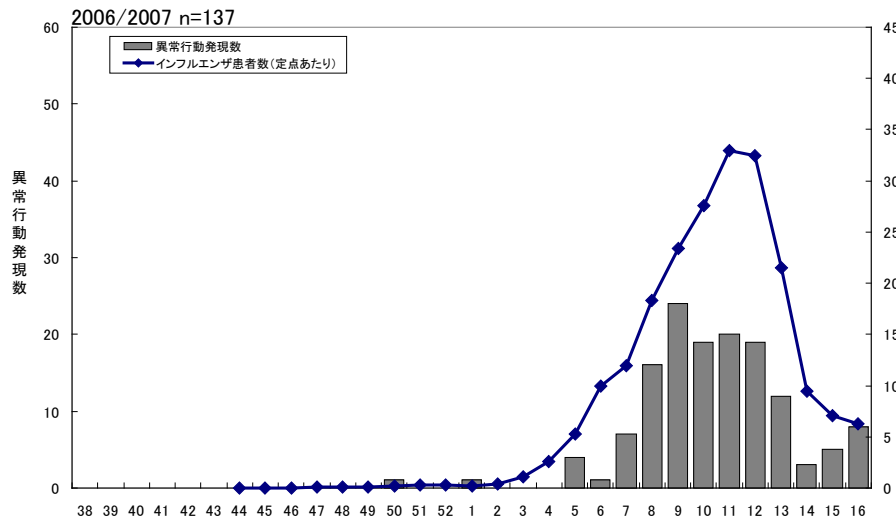


図4-2.異常行動（重度）の発熱週と発生動向調査

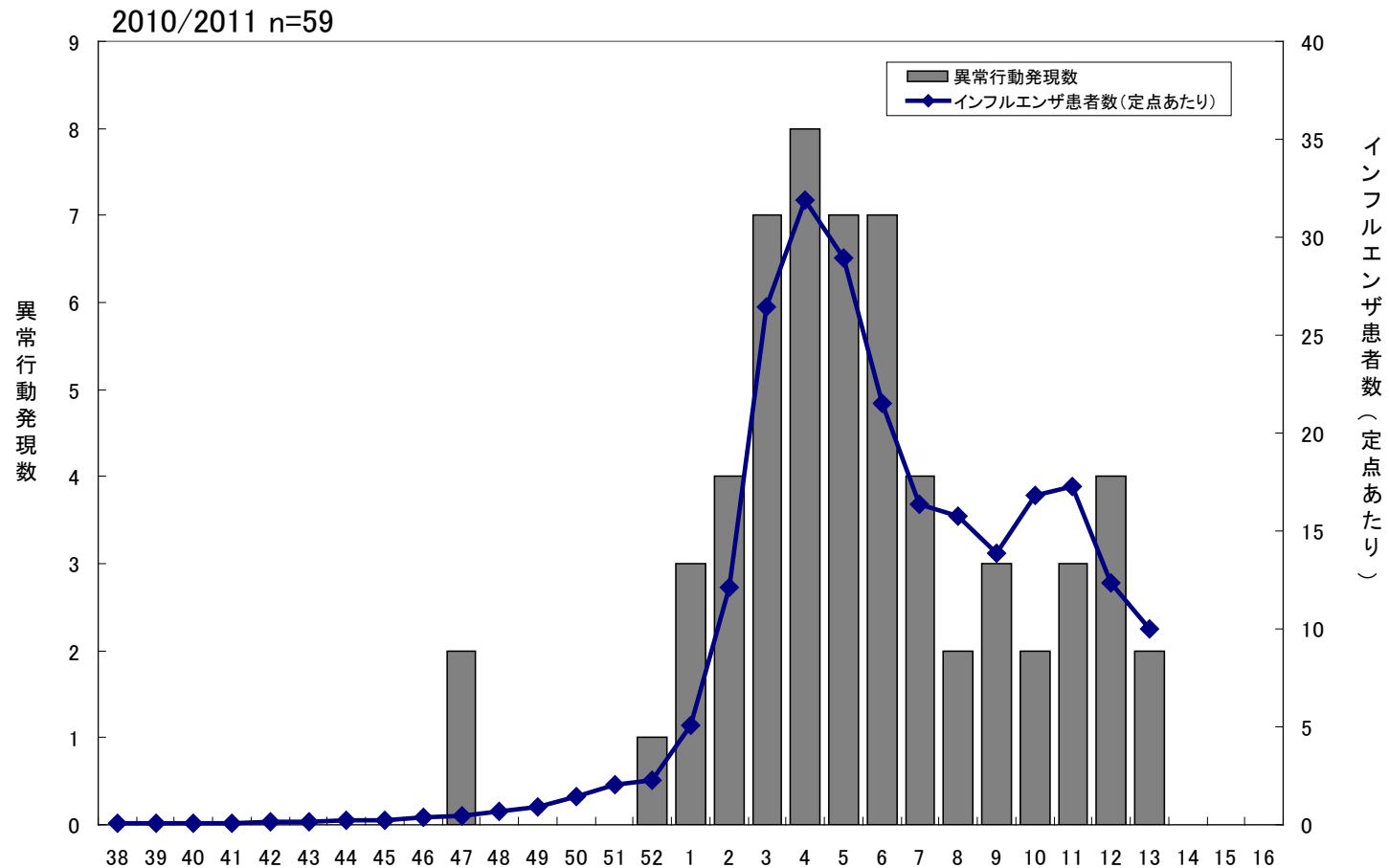


図5-1. 患者の年齢

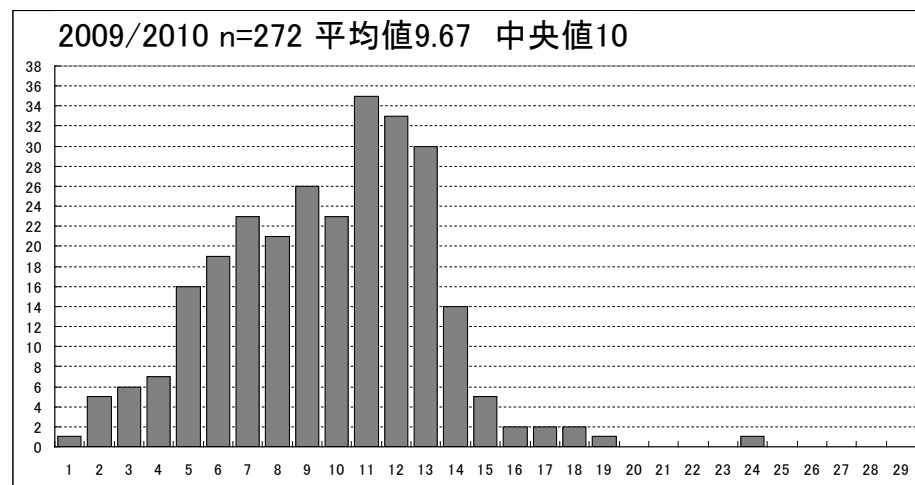
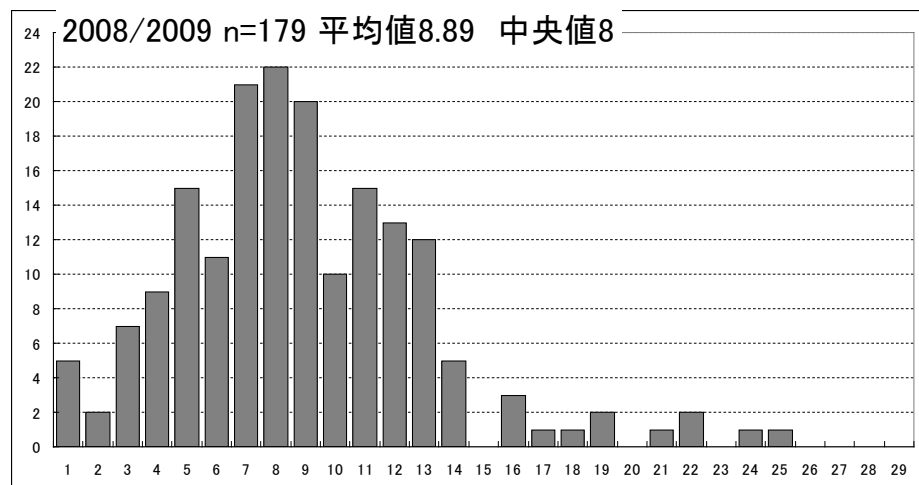
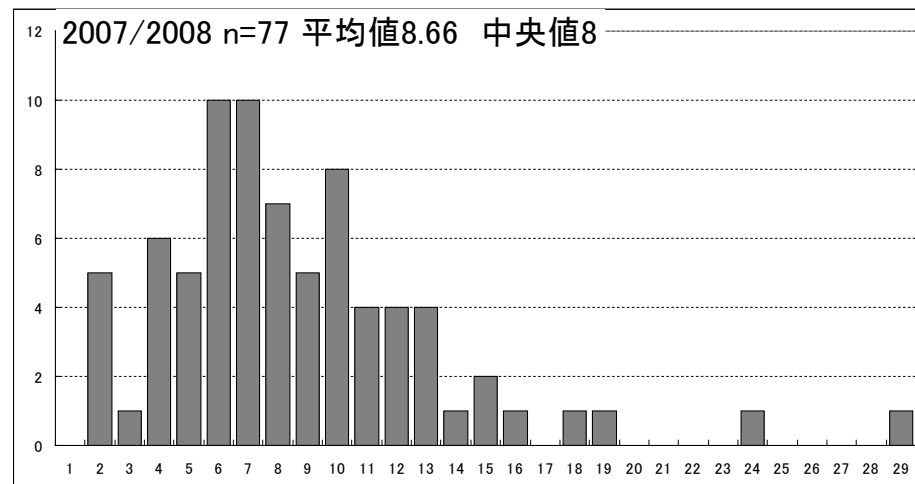
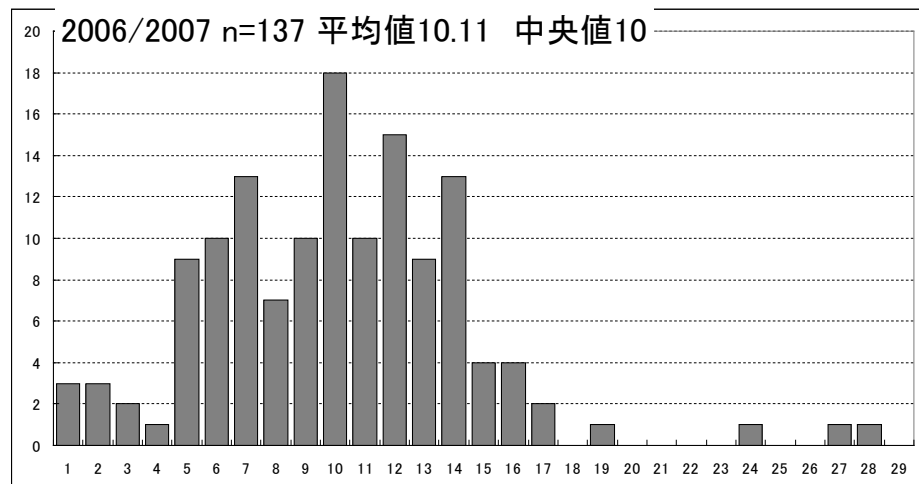


図5-2. 患者の年齢

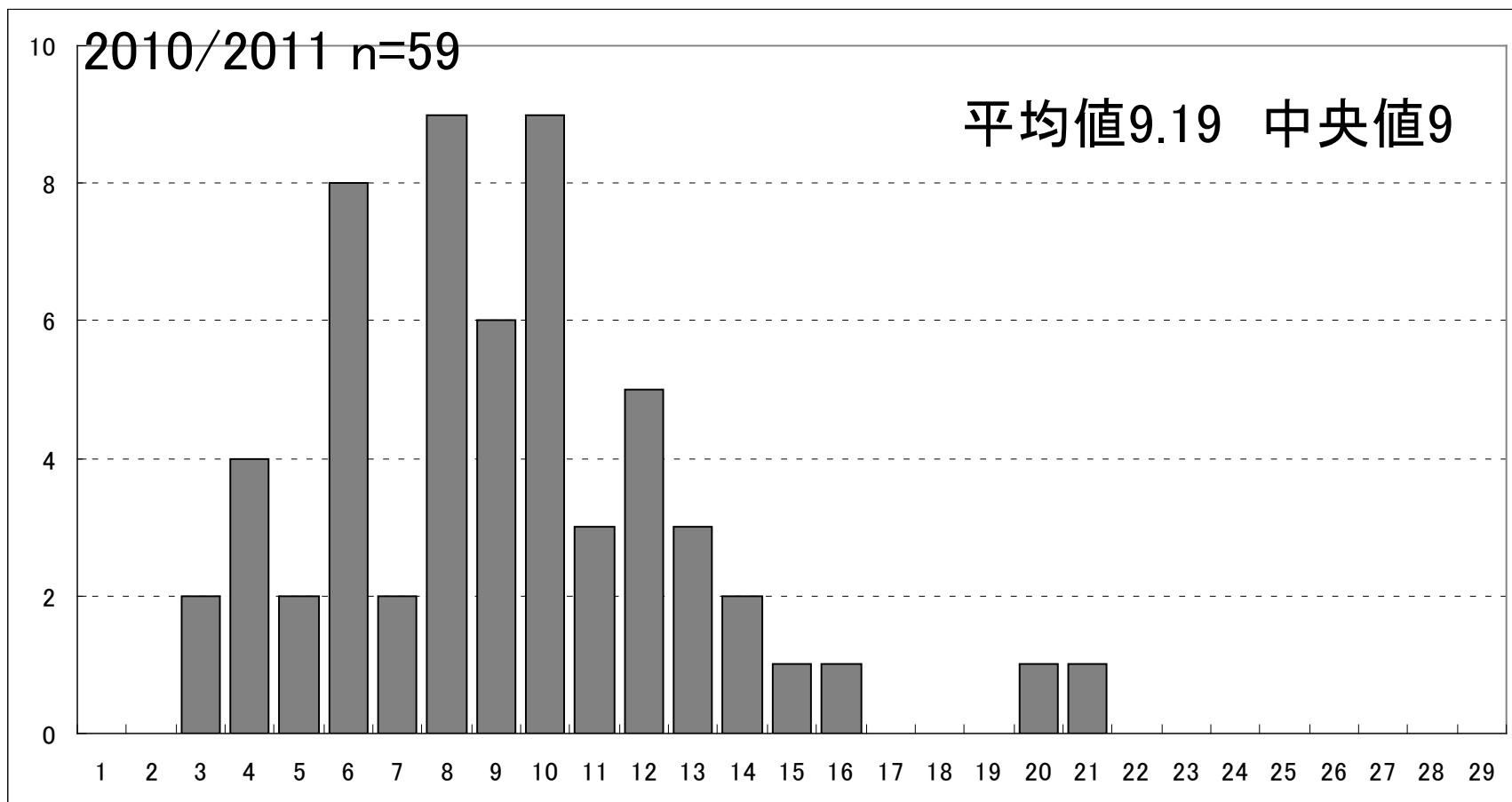
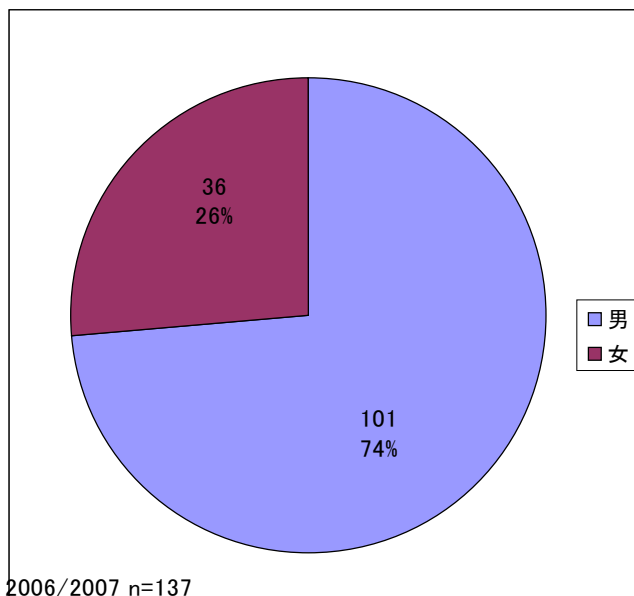
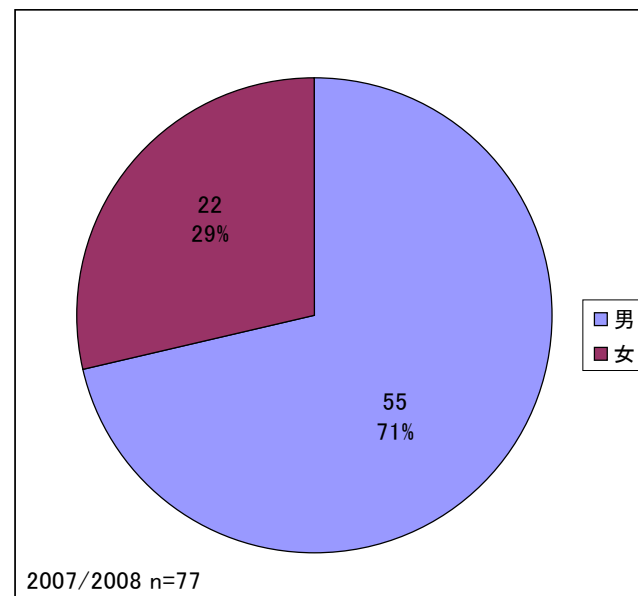


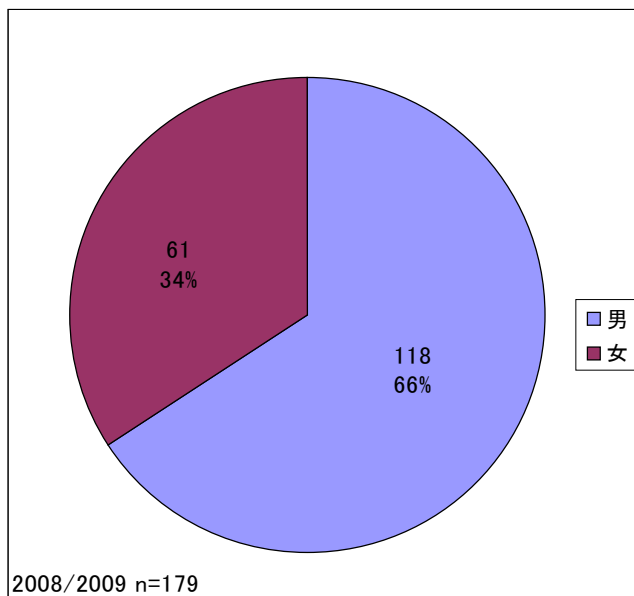
図6-1.患者の性別



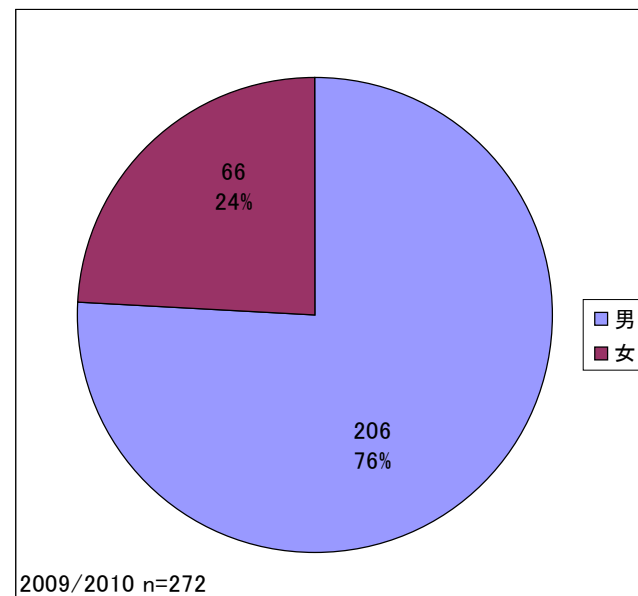
2006/2007 n=137



2007/2008 n=77



2008/2009 n=179



2009/2010 n=272

図6-2.患者の性別

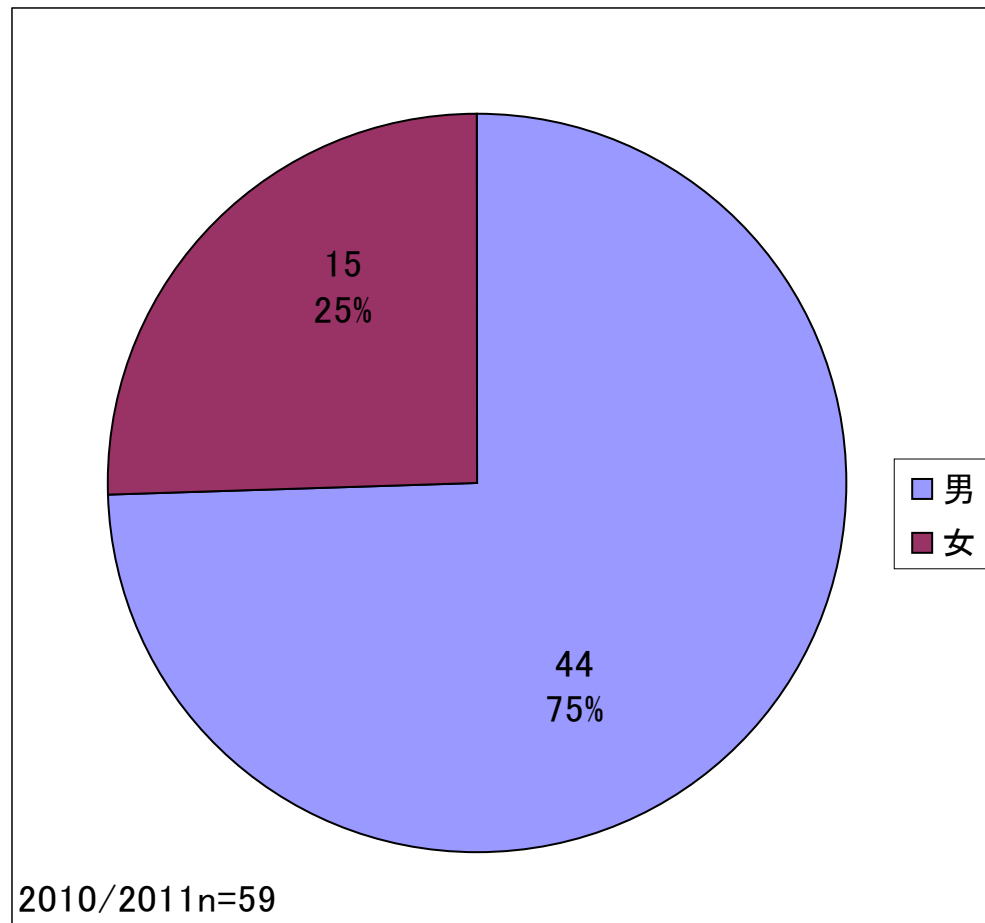


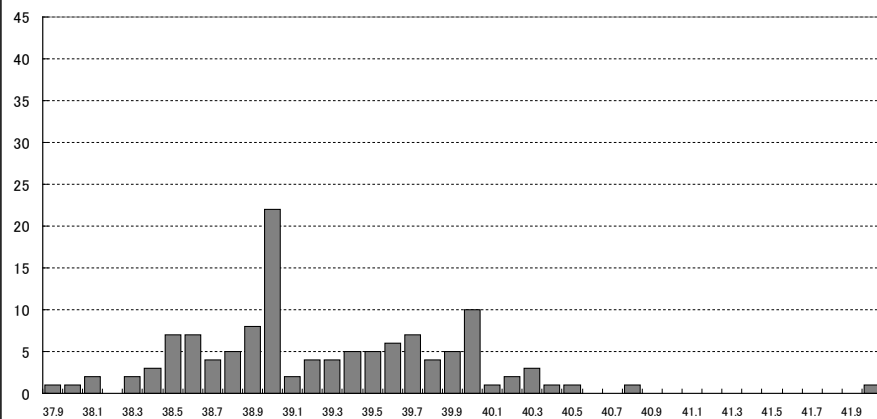
表1.発熱から異常行動発現までの日数

	(2007／2008)		(2008／2009)		(2009／2010)		(2010／2011)	
	重度		重度		重度		重度	
発現日	n	%	n	%	n	%	n	%
発熱後1日以内	25	33.33	47	27.01	66	24.72	13	22.03
2日目	37	49.33	87	50.57	151	56.55	36	61.02
3日目	11	14.67	22	12.64	42	15.73	8	13.56
4日目	2	2.67	17	9.76	8	2	2	3.38
	75	100	173	100	267	100	59	100

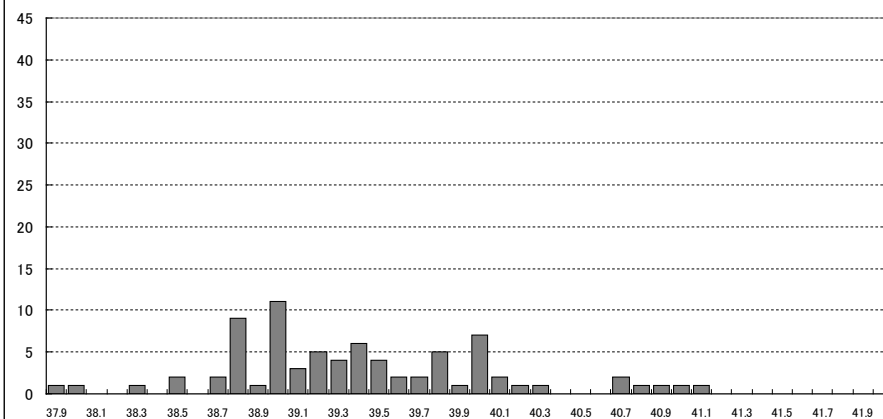
	走り出し、飛び降りのみ		走り出し、飛び降りのみ		走り出し、飛び降りのみ		走り出し、飛び降りのみ	
発現日	n	%	n	%	n	%	n	%
発熱後1日以内	14	35	24	28.57	33	23.7	11	39.29
2日目	19	47.5	45	53.57	75	55.56	12	42.86
3日目	6	15	9	10.71	24	17.78	5	17.86
4日目以降	1	2.5	6	7.15	4	2	0	0
	40	100	84	100	136	100	28	100

図7-1.最高体温

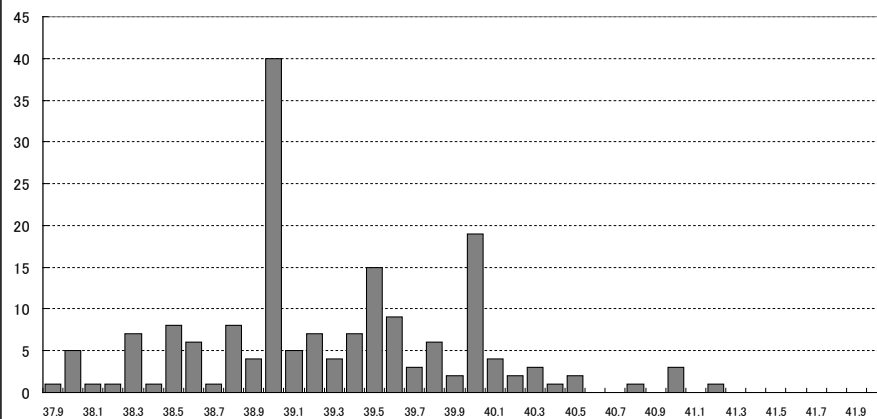
2006/2007 n=125 平均值39.24中央値39.0



2007/2008 n=77 平均值39.41中央値39.3



2008/2009 n=177 平均值39.28中央値39.2



2009/2010 n=256 平均值39.29 中央値39.2

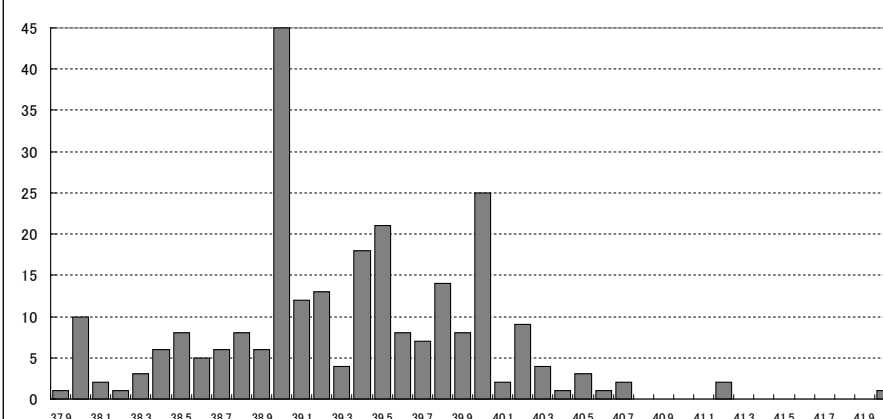


図7-2.最高体温

2010/2011 n=58

平均值39.2 中央値39.2

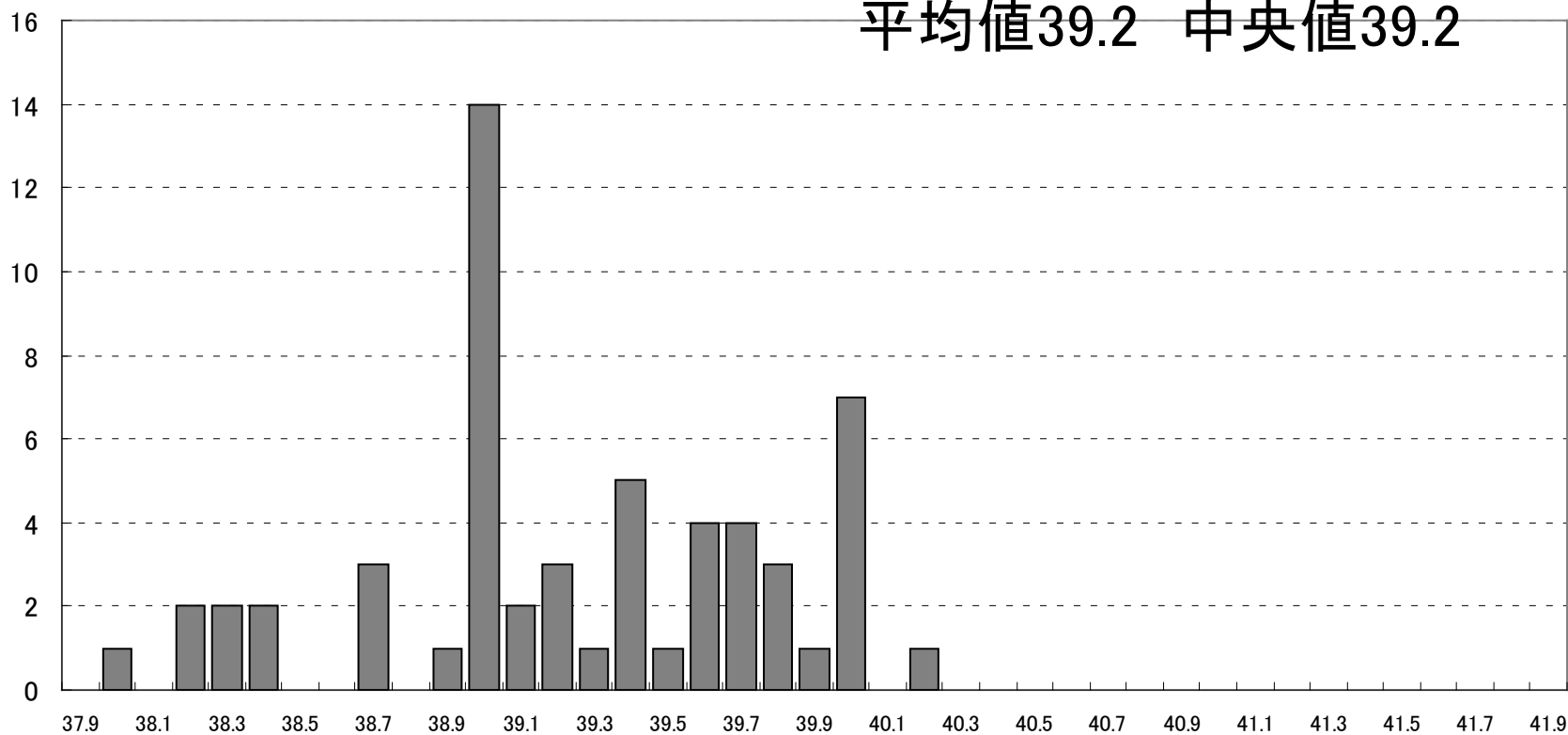
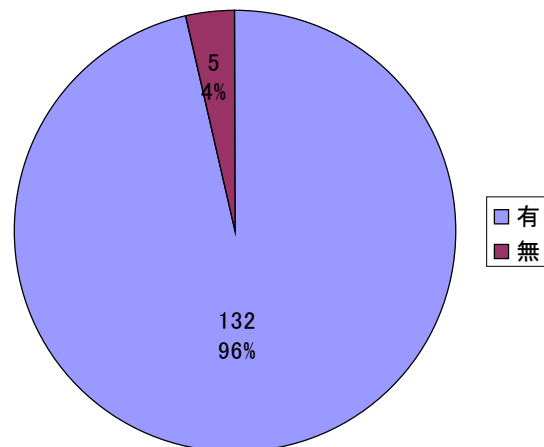
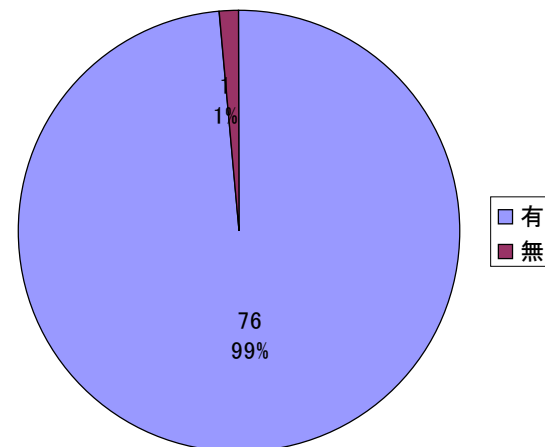


図8-1.インフルエンザ迅速診断 キットの実施の有無

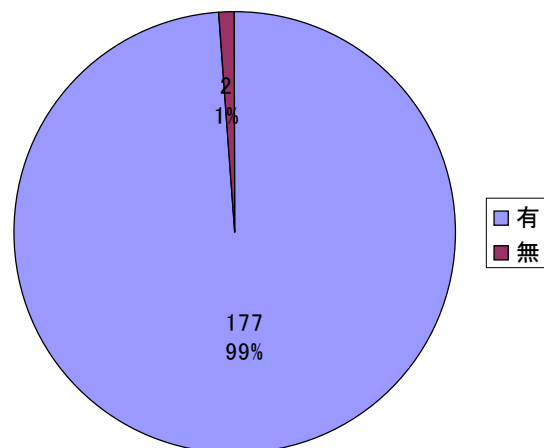
2006/2007 n=137



2007/2008 n=77



2008/2009 n=179



2009/2010 n=271

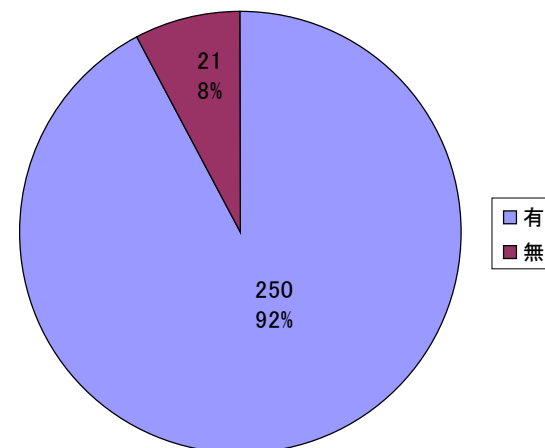


図8-2.インフルエンザ迅速診断 キットの実施の有無

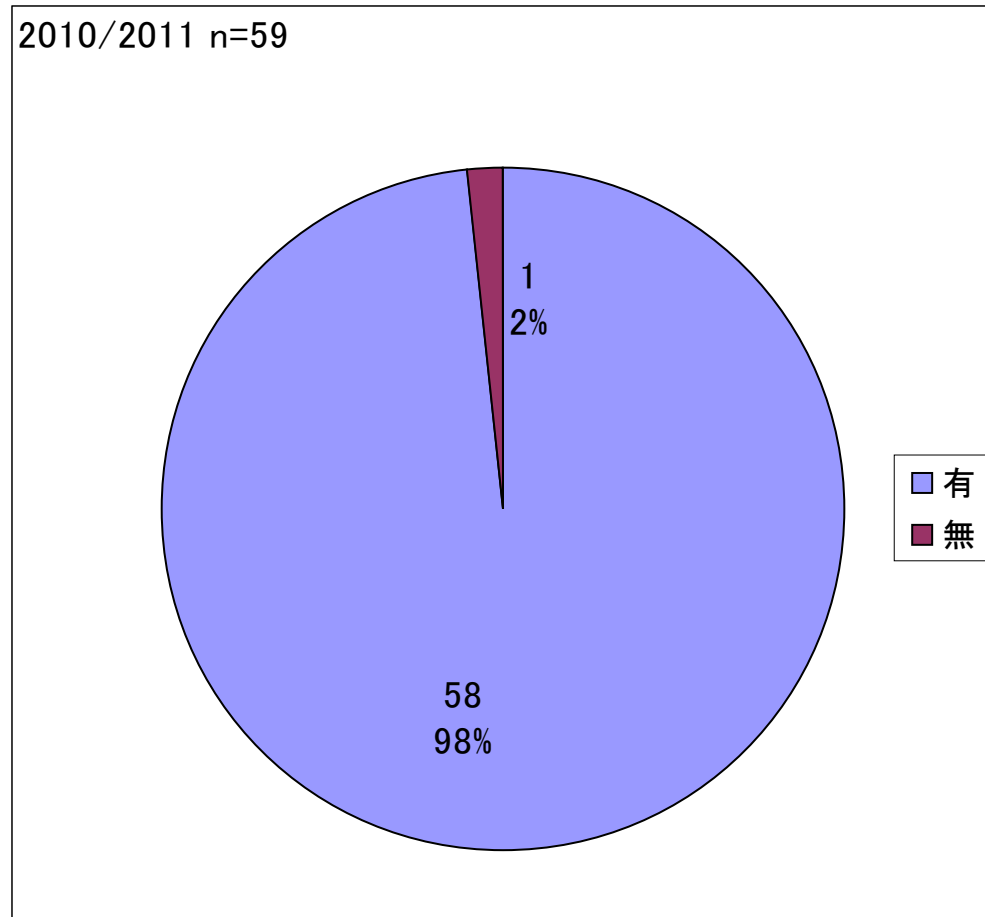


図9-1.迅速診断キットによる 検査結果

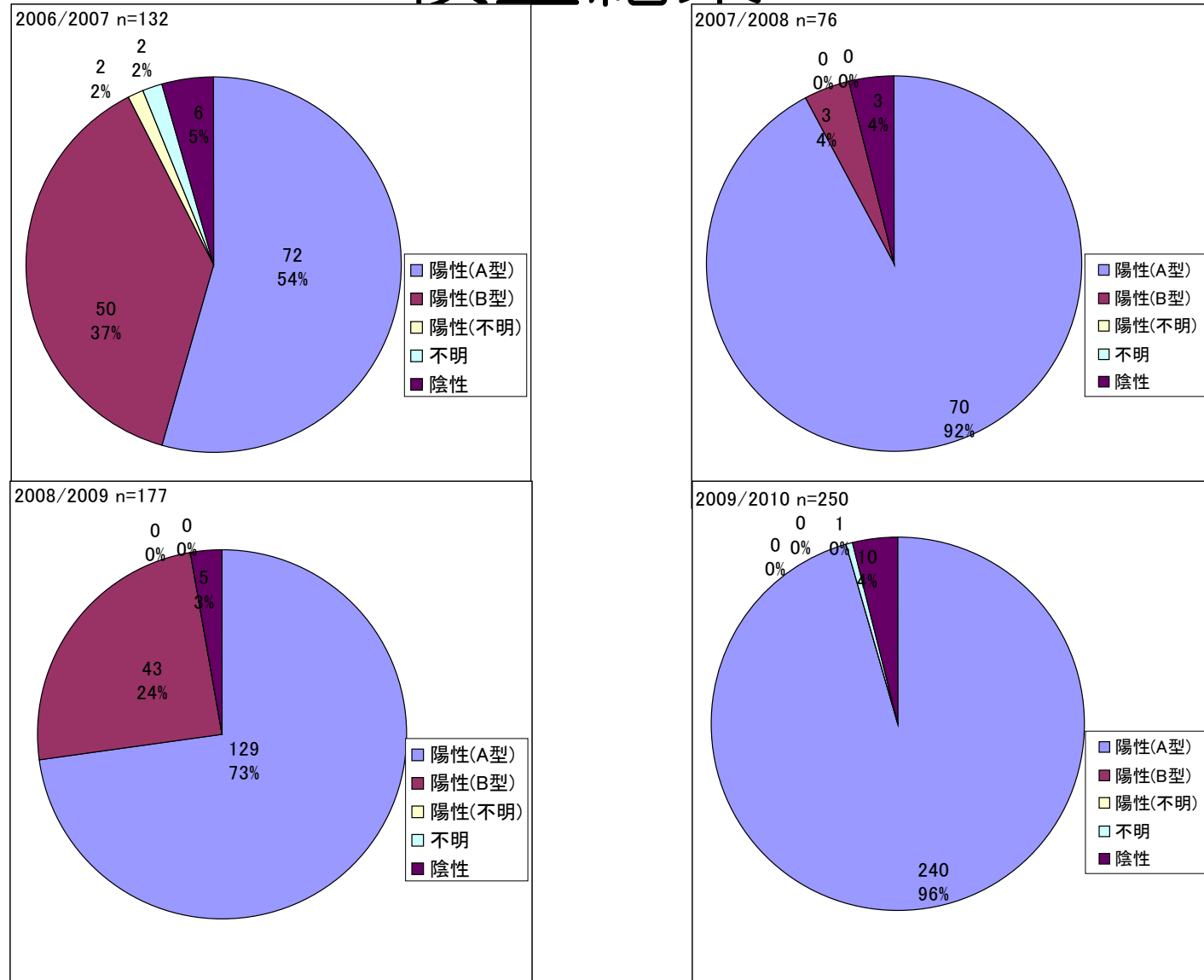


図9-2.迅速診断キットによる 検査結果

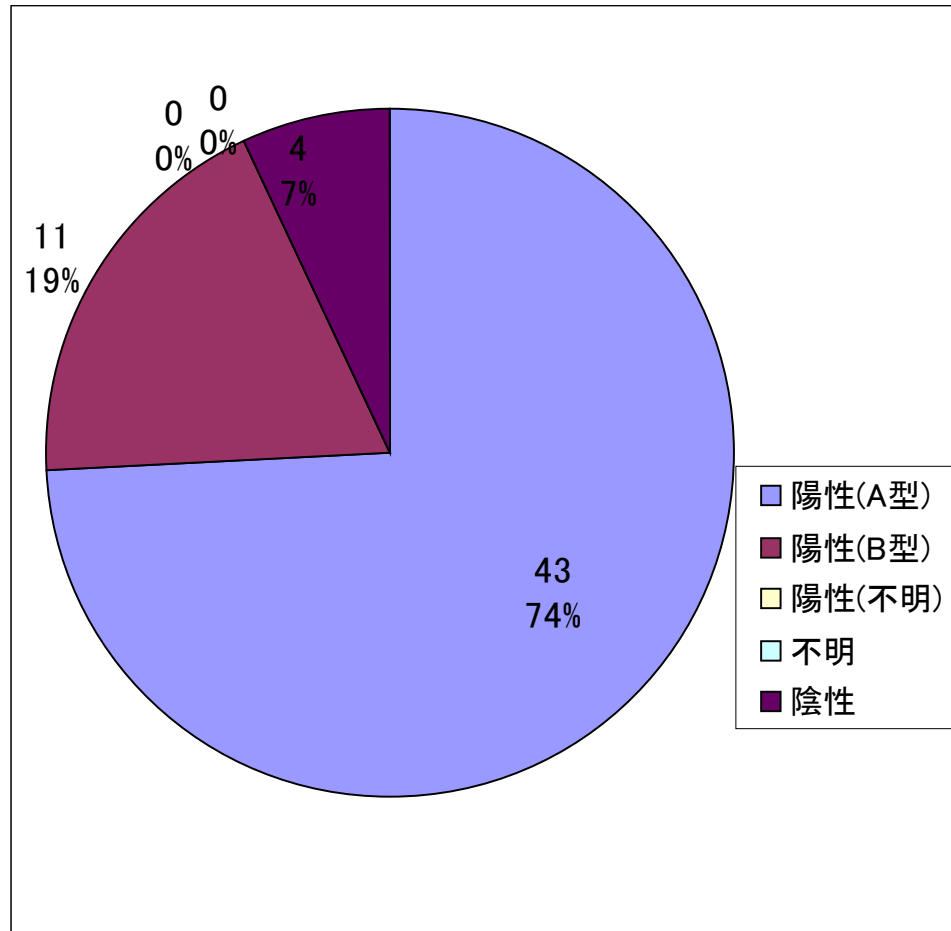
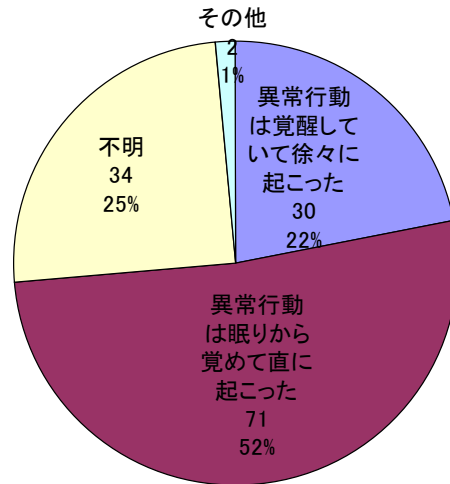
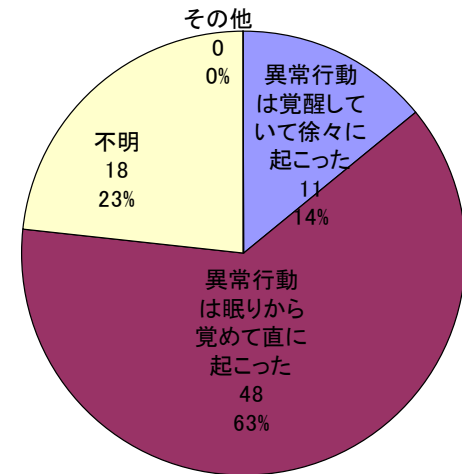


図10-1.異常行動と睡眠の関係

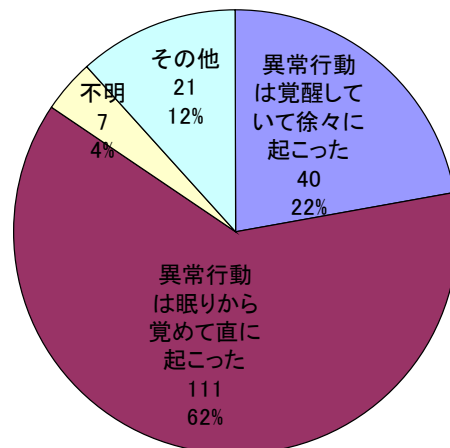
2006/2007 n=137



2007/2008 n=77



2008/2009 n=179



2009/2010 n=272

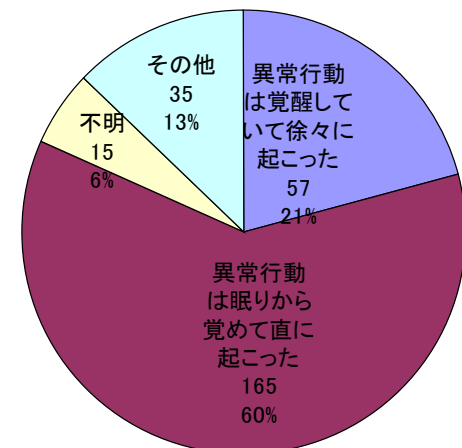


図10-2.異常行動と睡眠の関係

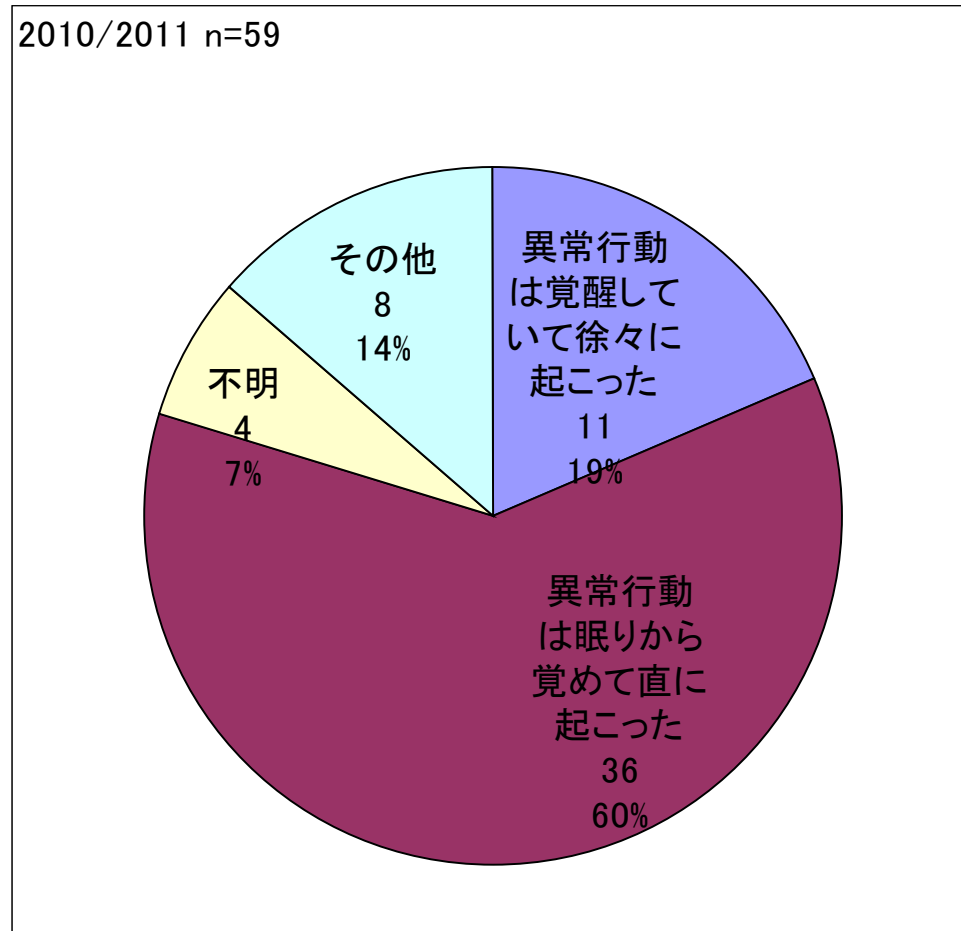
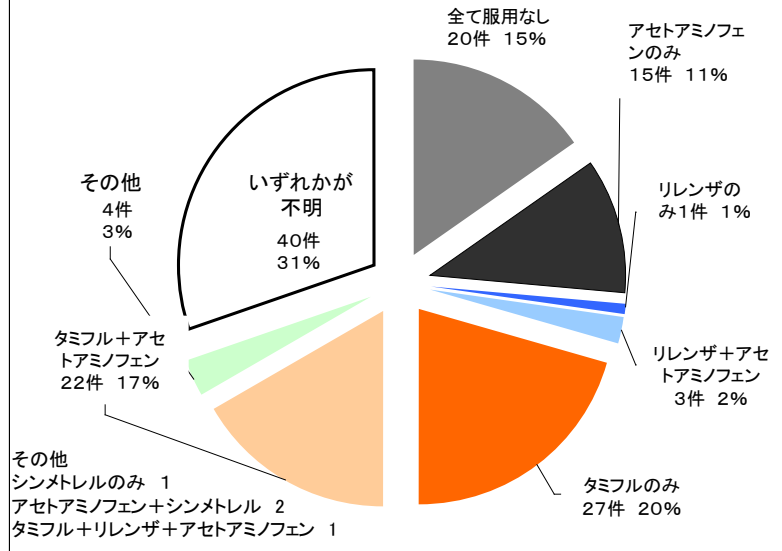
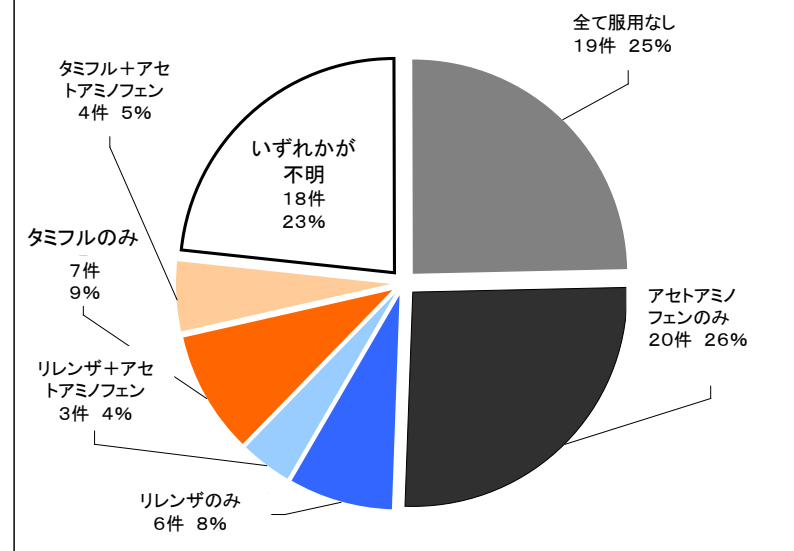


図11-1.薬の組み合わせ

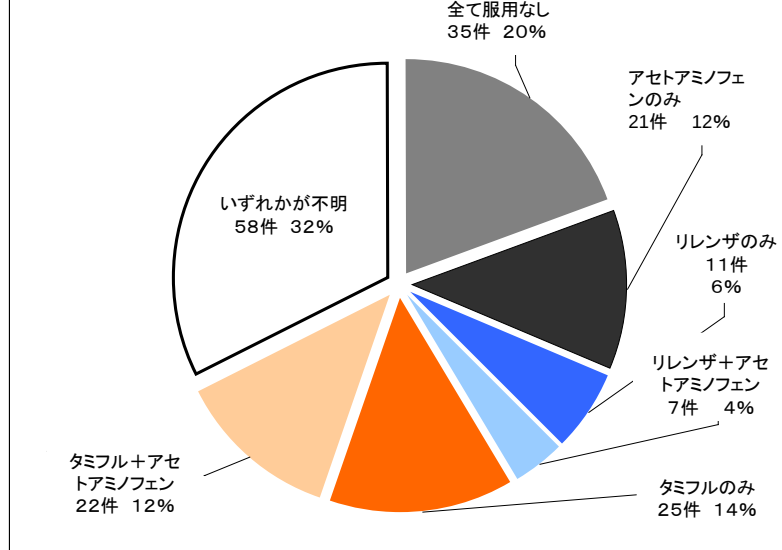
2006/2007 n=132



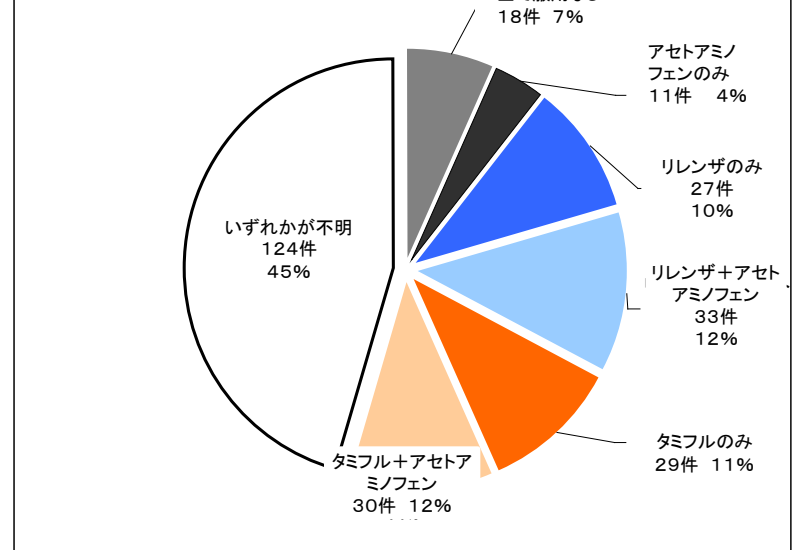
2007/2008 n=77



2008/2009 n=179



2009/2010 n=272



注:タミフル、シンメトレル、リレンザ、アセトアミノフェンの4剤の服用有無が明らかな症例についての内訳。
4剤のうち一部薬剤処方有り症例でも、併用状況が不明な症例は「いずれかが不明」に分類。

図11-2.薬の組み合わせ

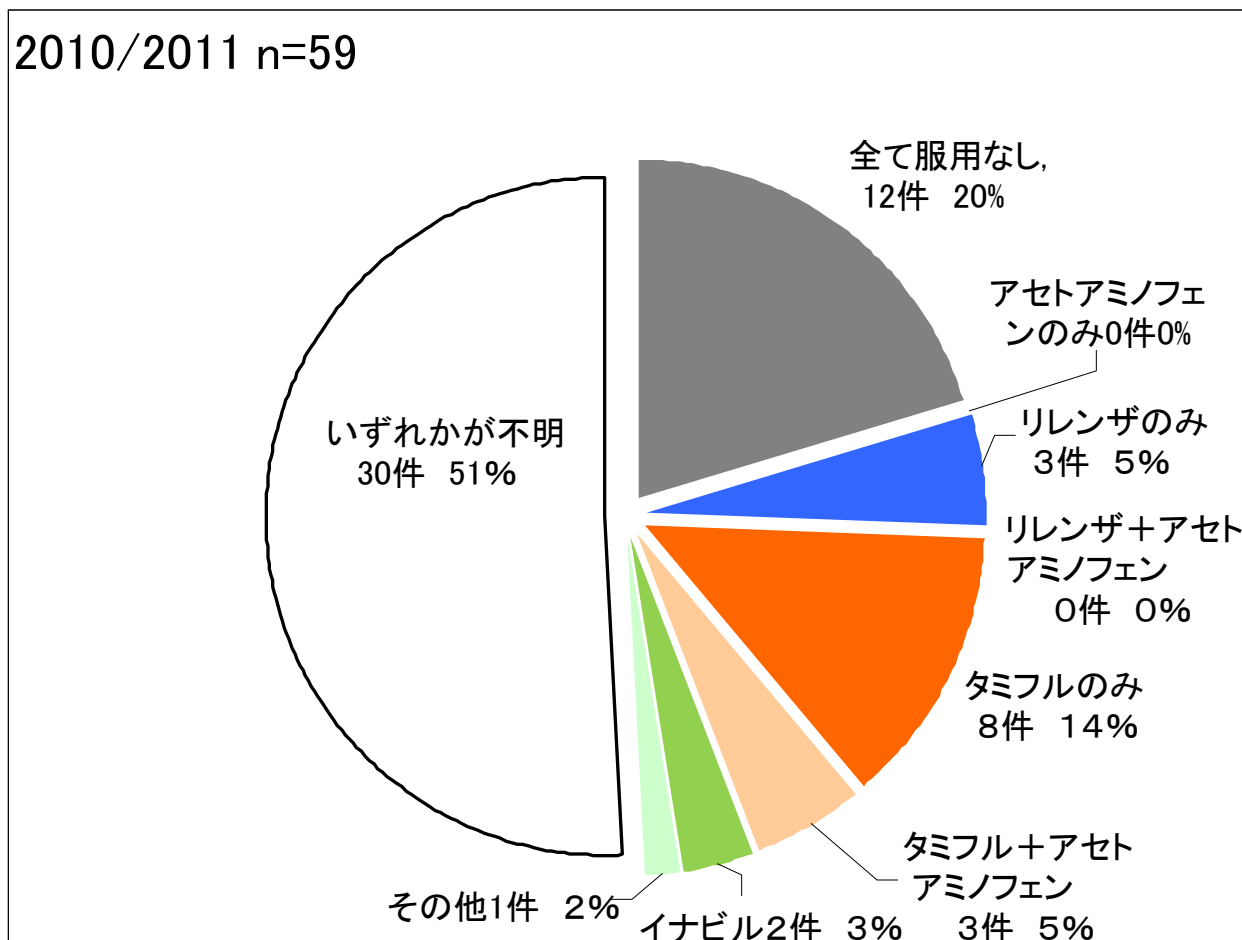
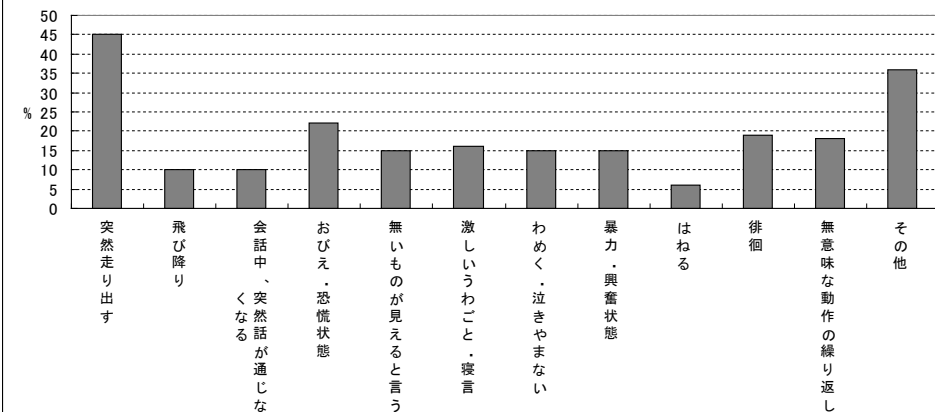
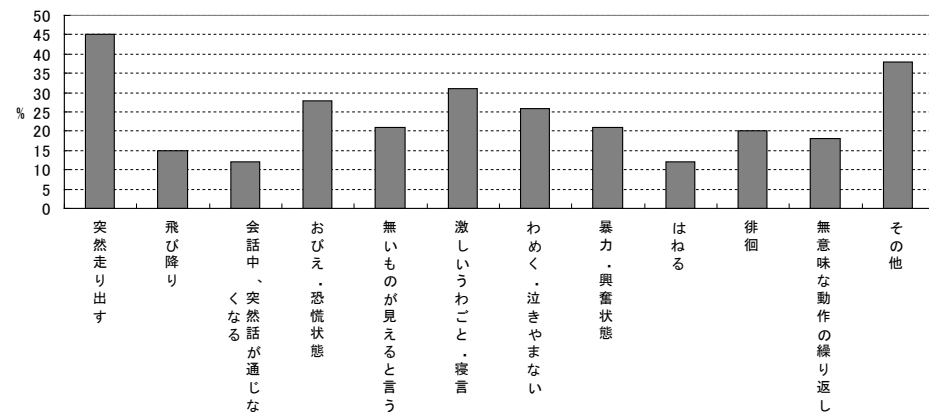


図12-1.異常行動の分類(複数回答)

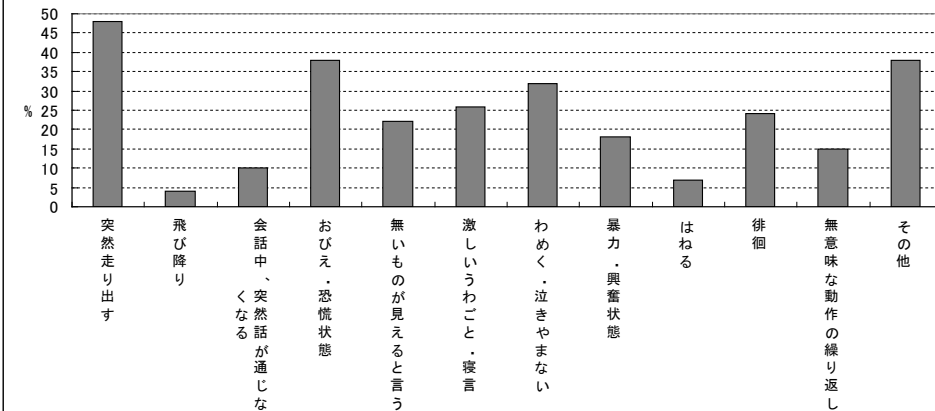
2006/2007



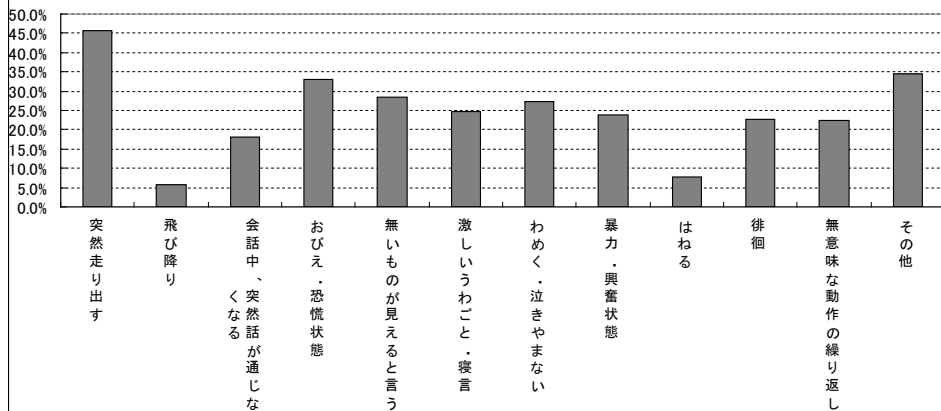
2007/2008



2008/2009

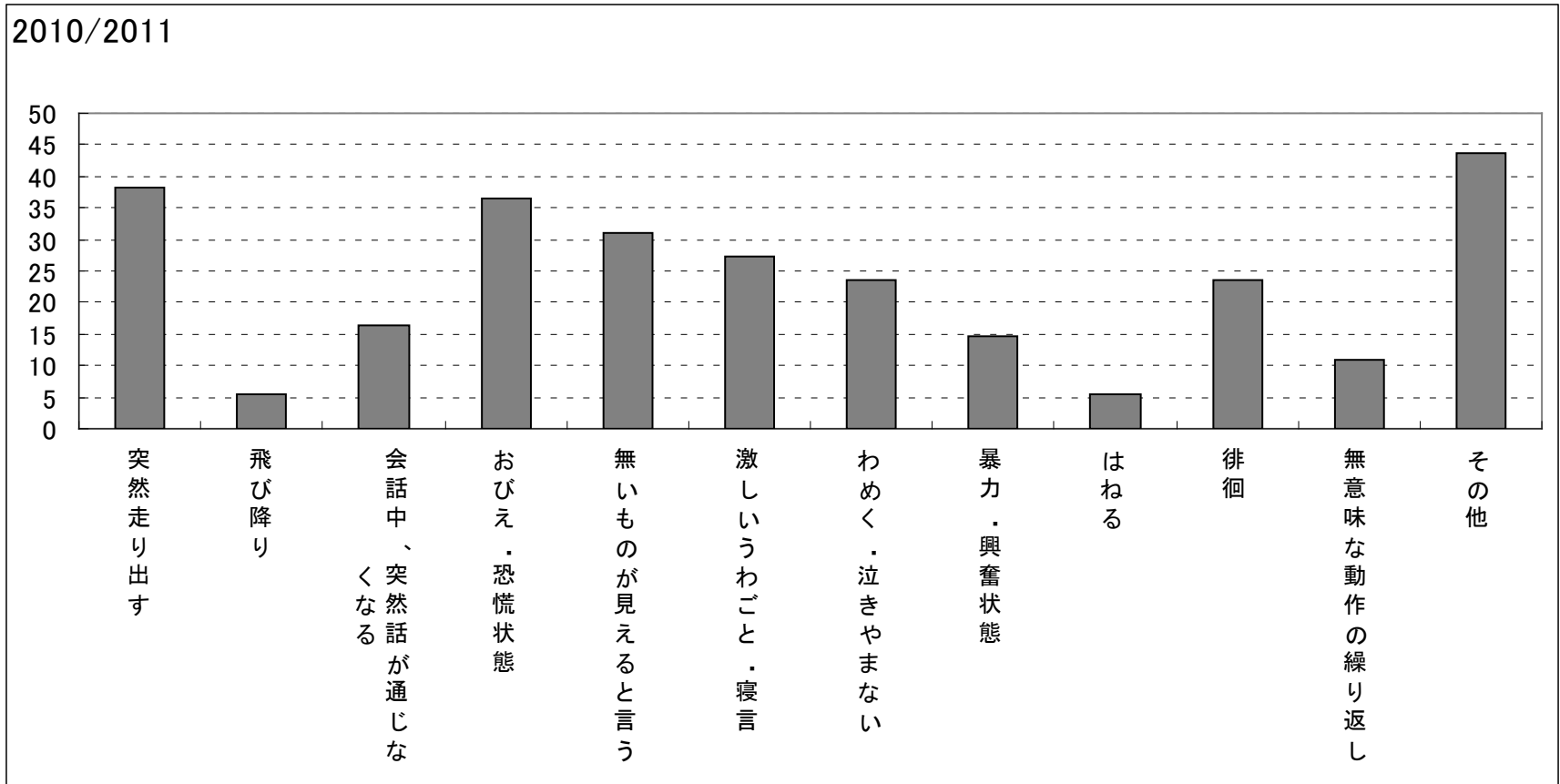


2009/2010



注: 複数回答で、それぞれ割合で示しているのので、合計は100%を超える。

図12-2.異常行動の分類(複数回答)



突然走り出す・飛び降りのみ の分析

図13-1.患者の年齢

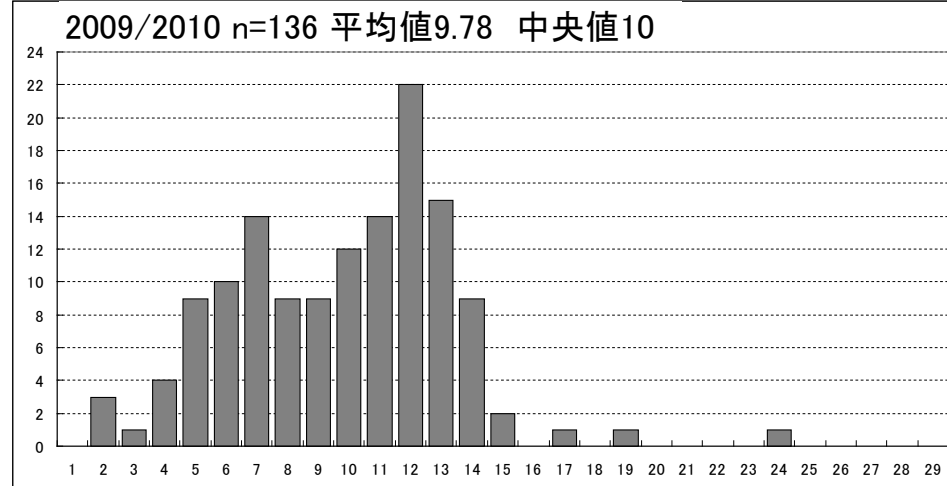
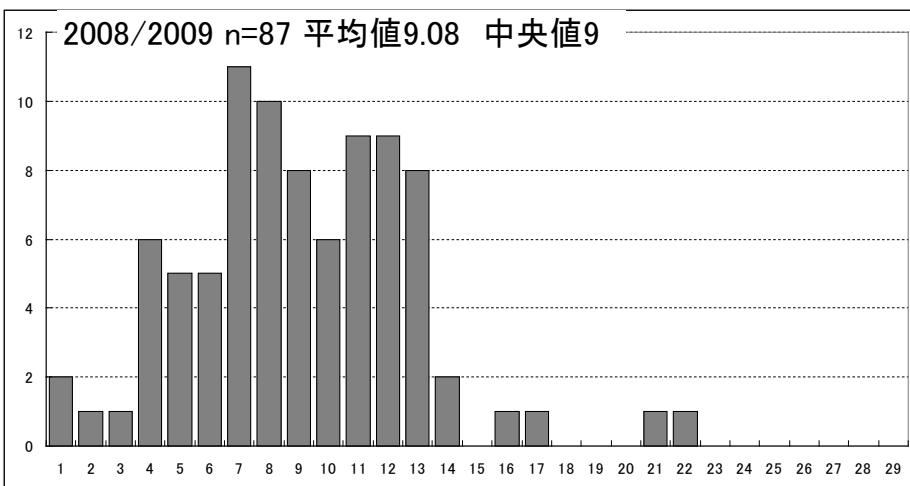
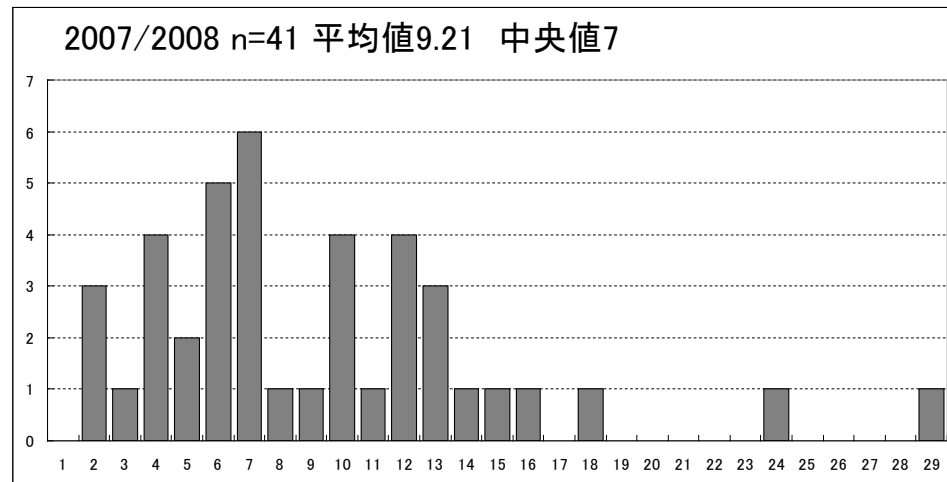
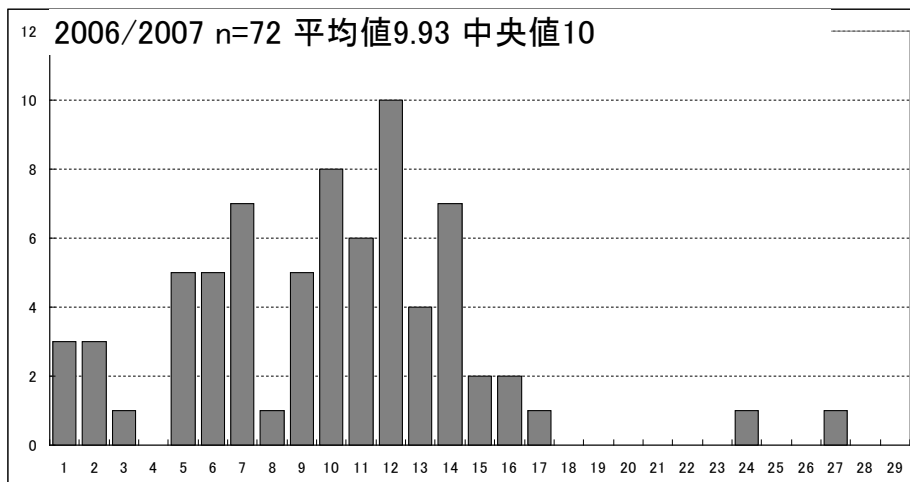


図13-2.患者の年齢

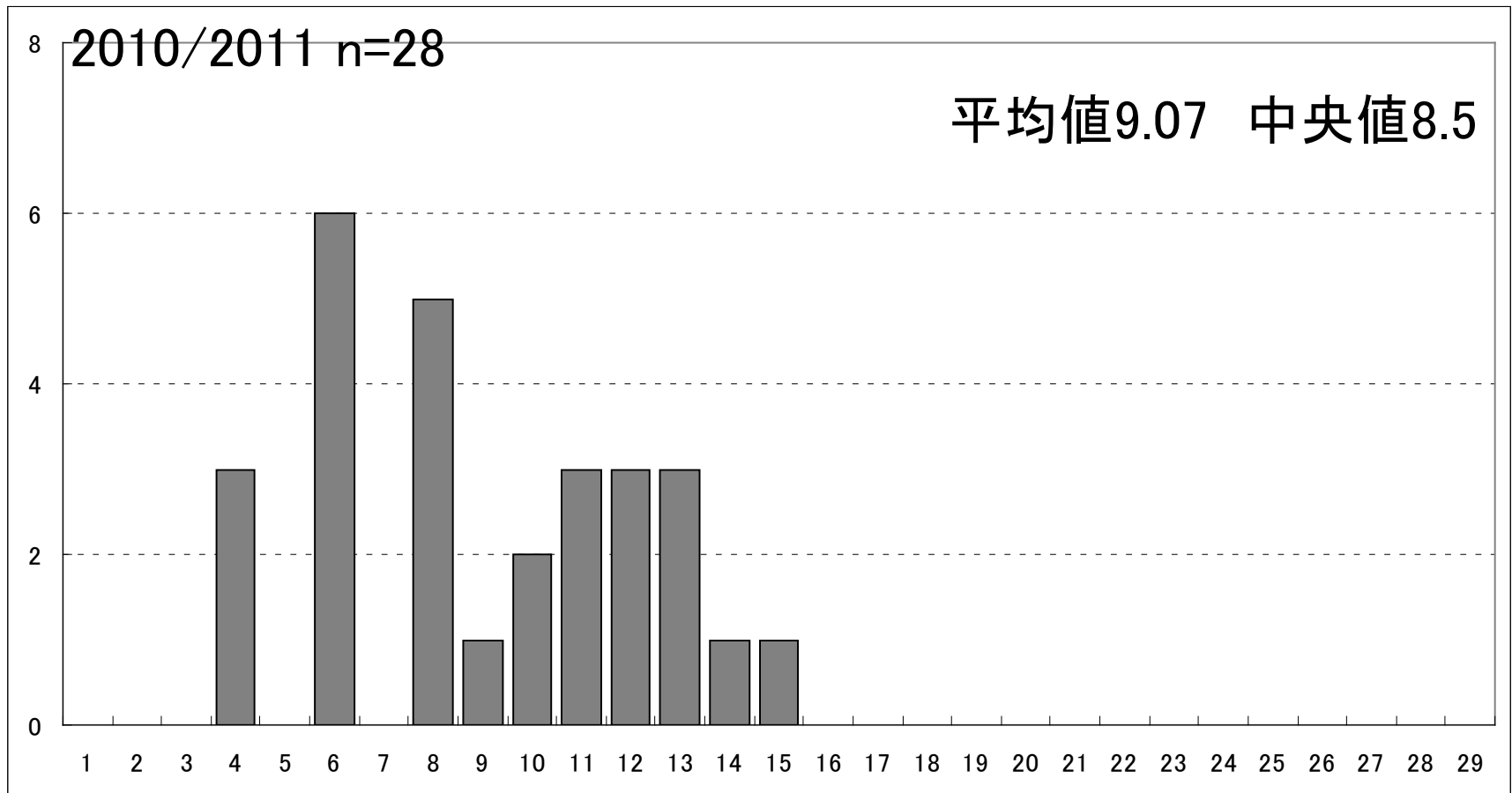


図14-1.患者の性別

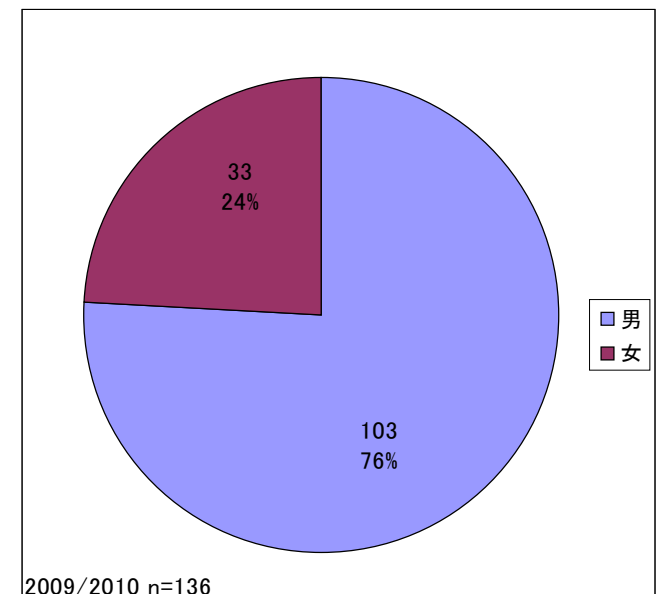
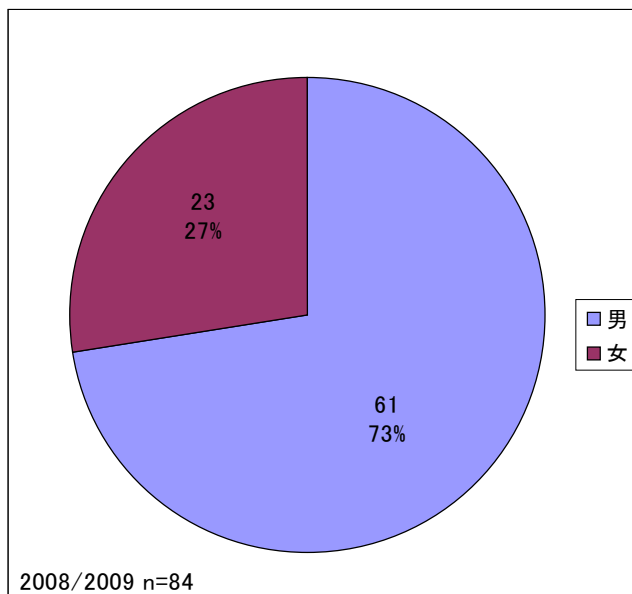
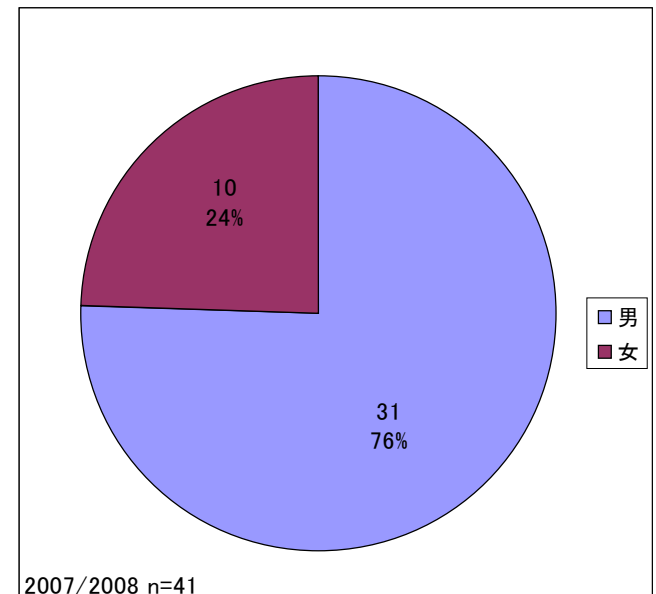
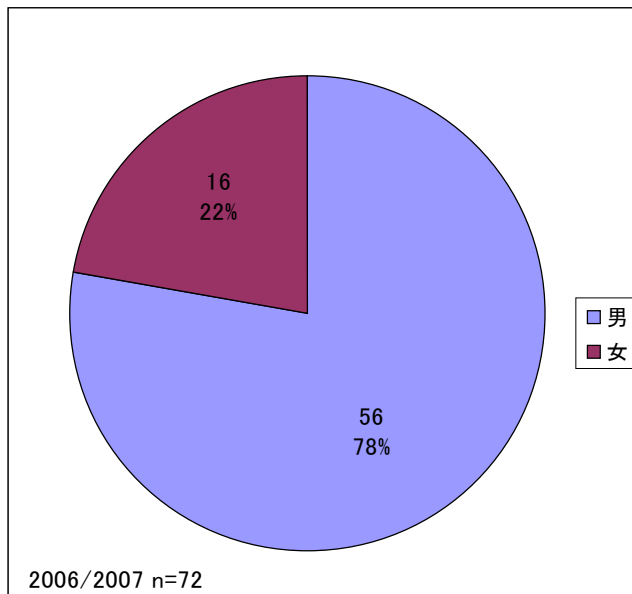


図14-2.患者の性別

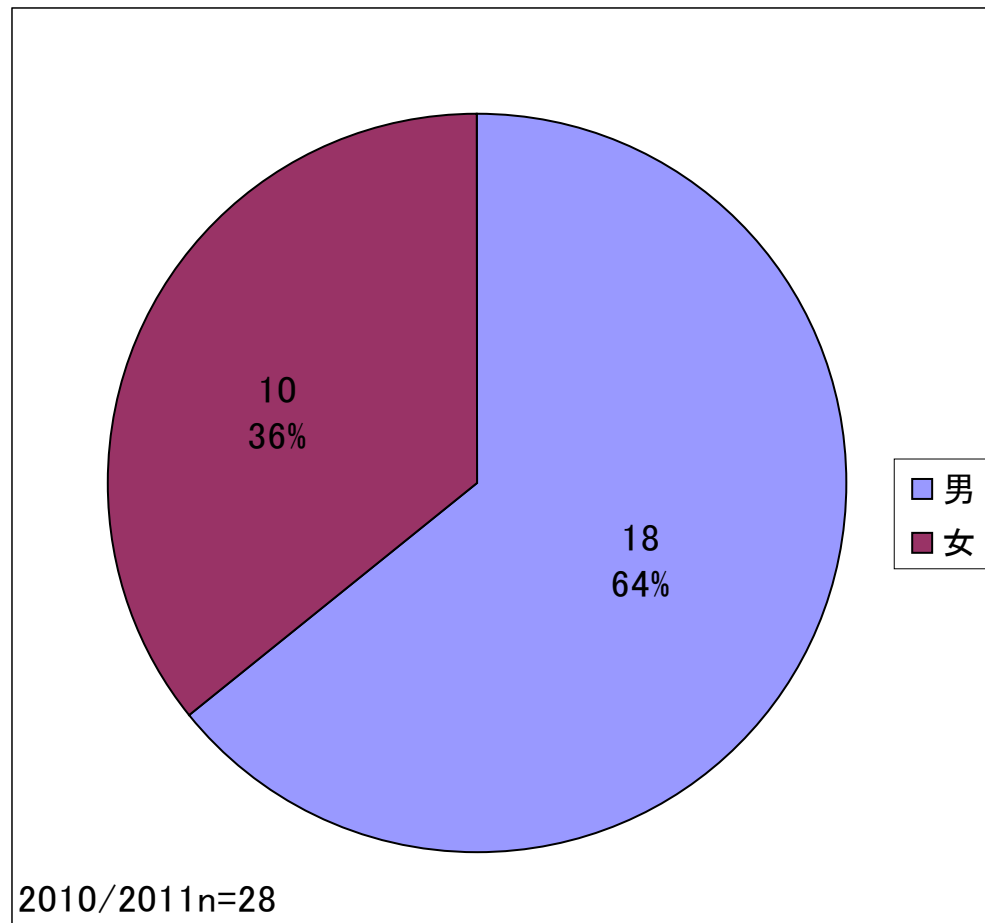
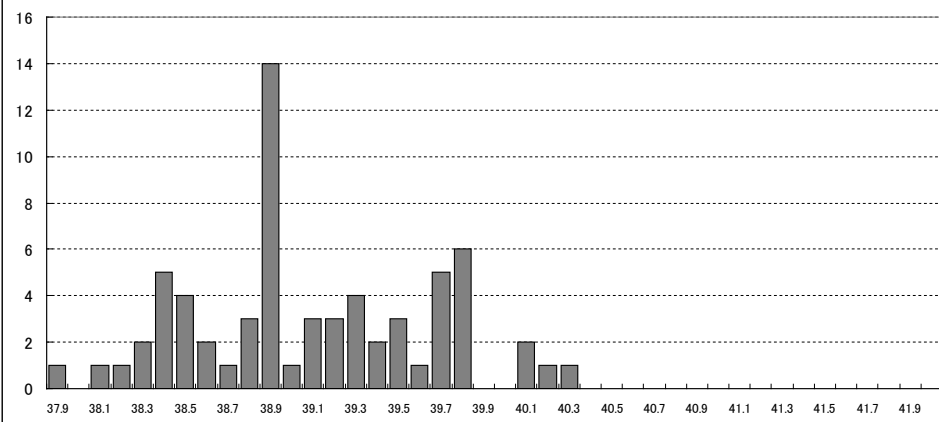
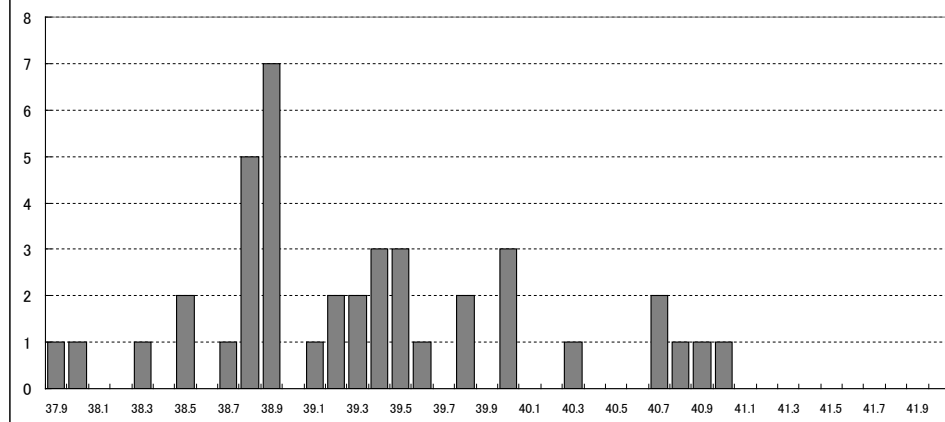


図15-1.最高体温

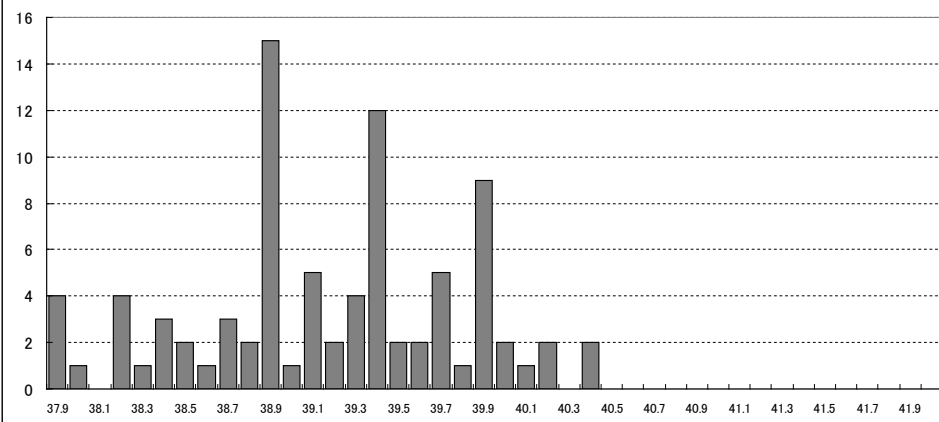
2006/2007 n=66 平均值39.24中央値39.0



2007/2008 n=41 平均值39.34中央値39.2



2008/2009 n=86 平均值39.26 中央値39.3



2009/2010 n=127 平均值39.21 中央値39.1

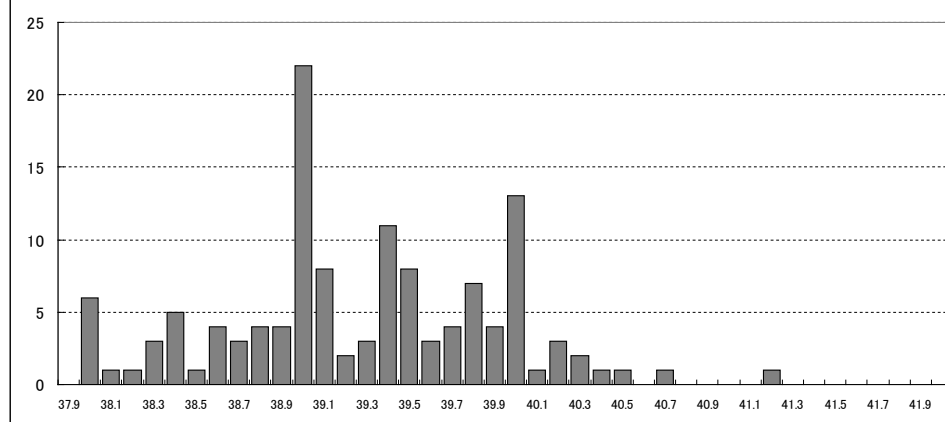


図15-2.最高体温

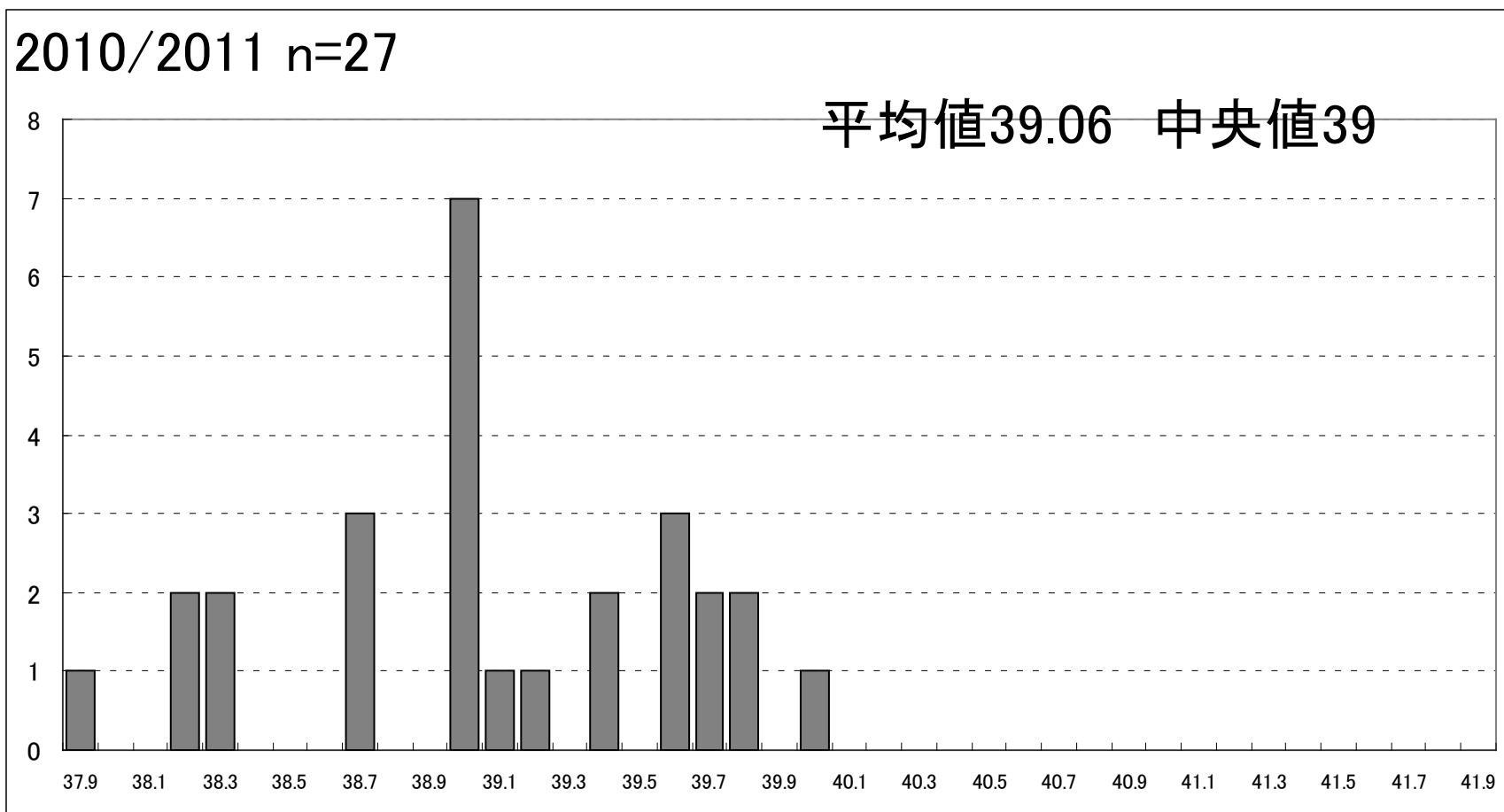
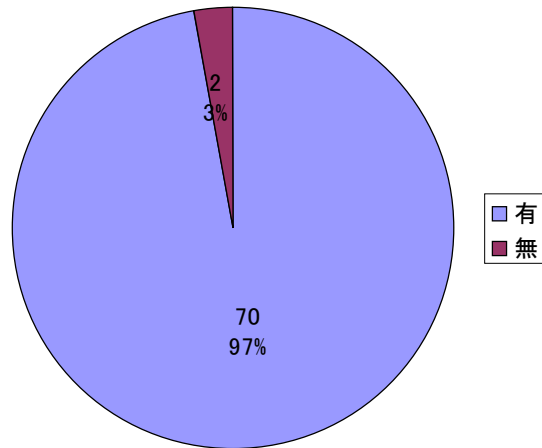
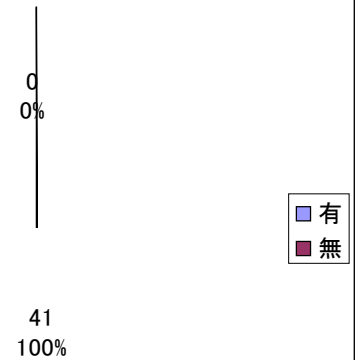


図16-1.インフルエンザ迅速診断 キットの実施の有無

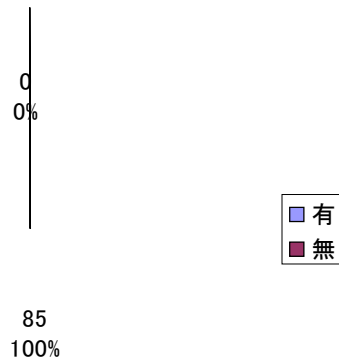
2006/2007 n=72



2007/2008 n=41



2008/2009 n=85



2009/2010 n=136

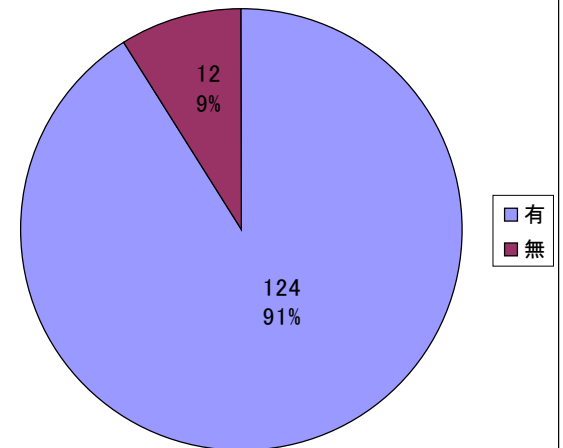


図16-2.インフルエンザ迅速診断 キットの実施の有無

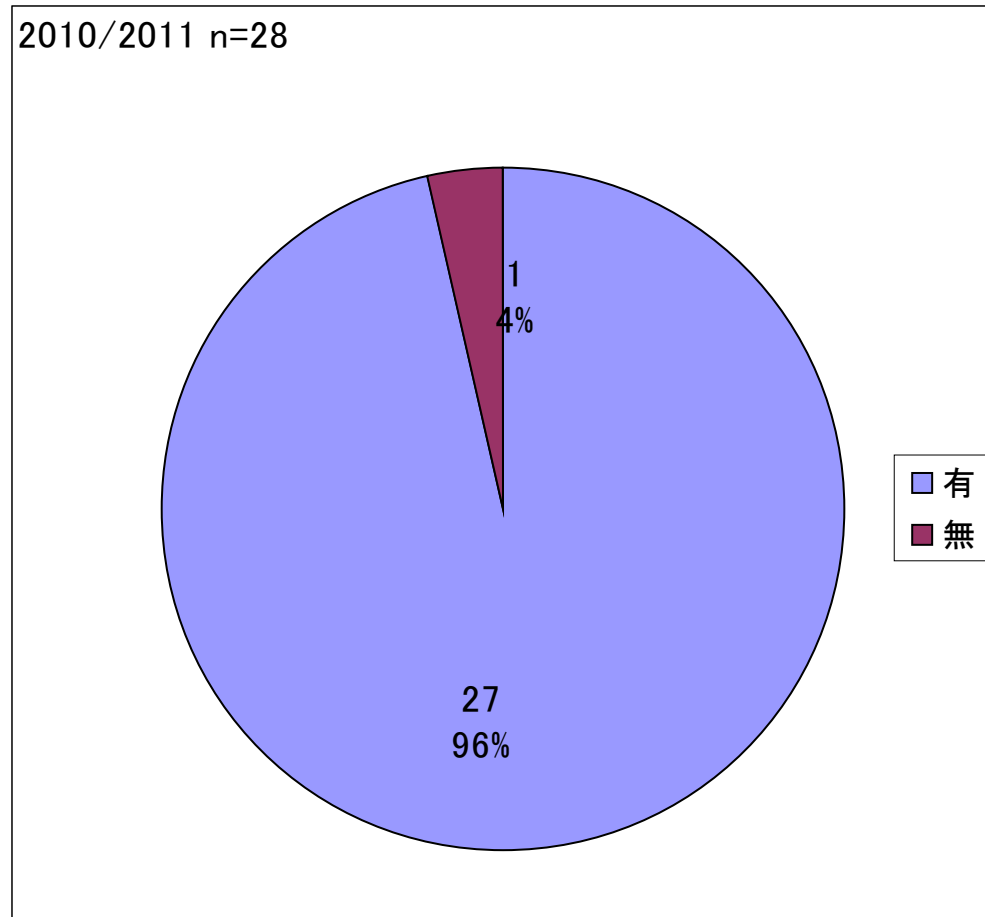
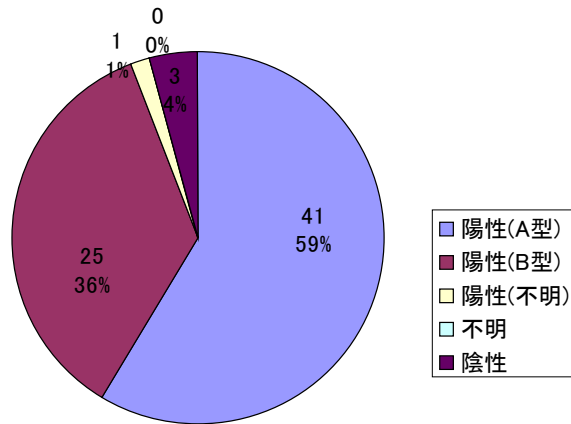
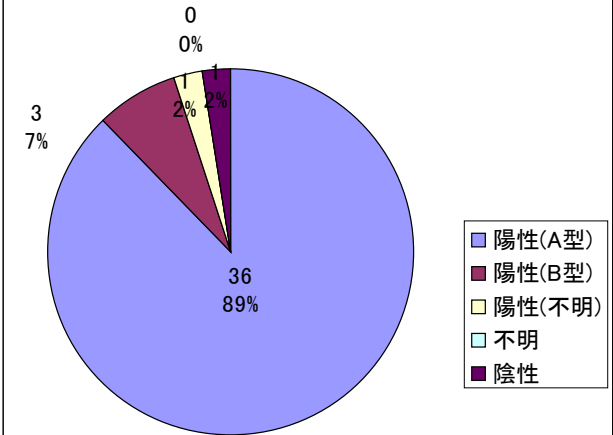


図17-1.迅速診断キットによる 検査結果

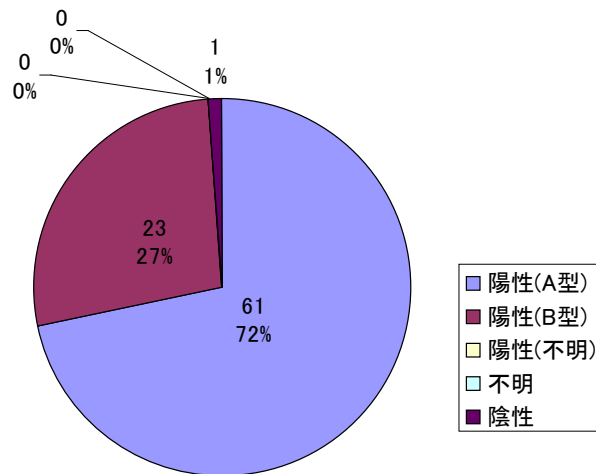
2006/2007 n=70



2007/2008 n=41



2008/2009 n=85



2009/2010 n=124

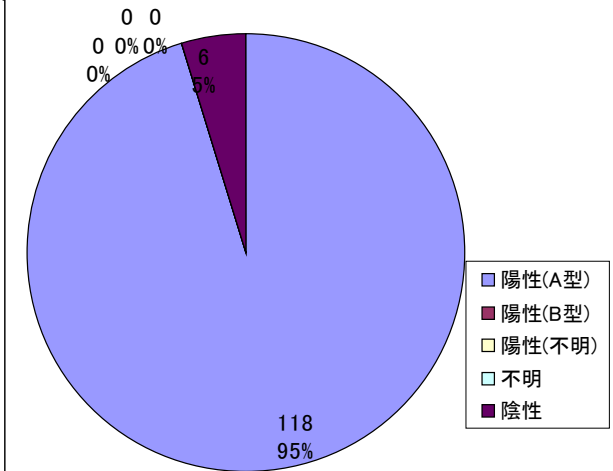


図17-2.迅速診断キットによる 検査結果

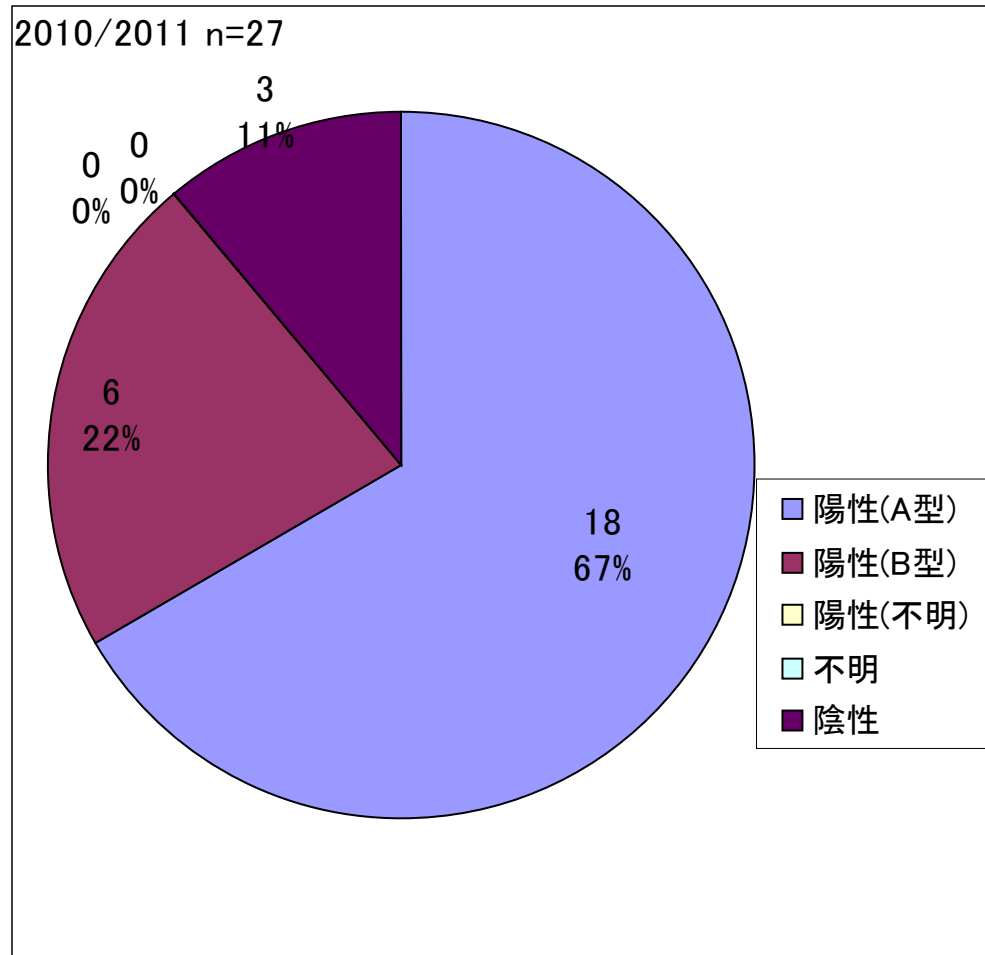
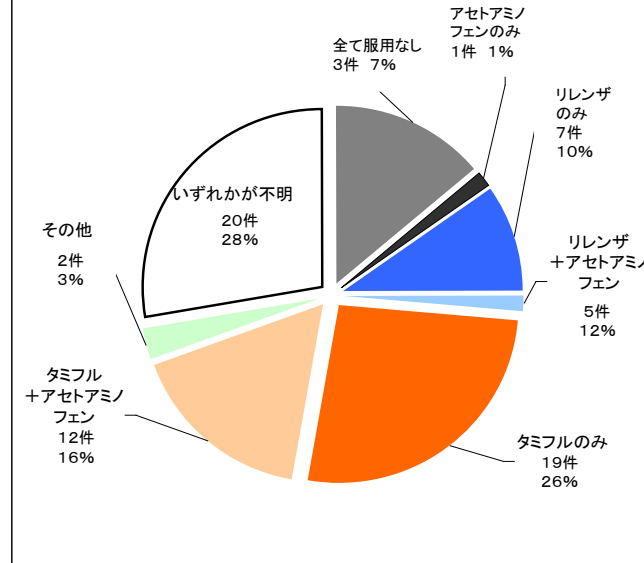
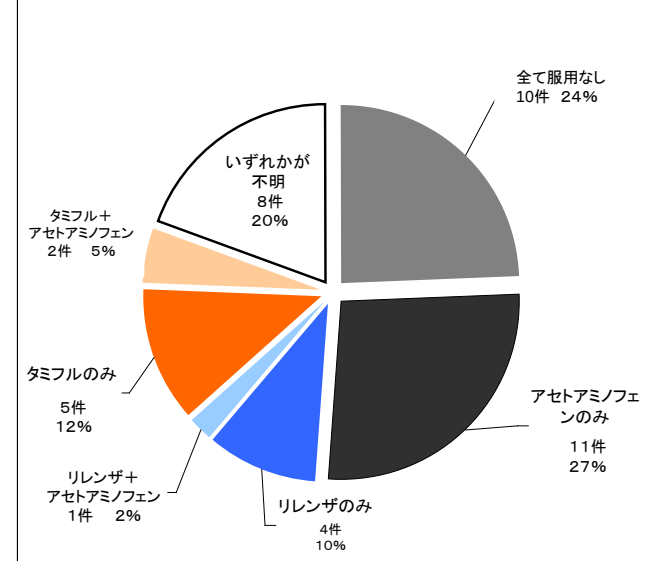


図18-1.薬の組み合わせ

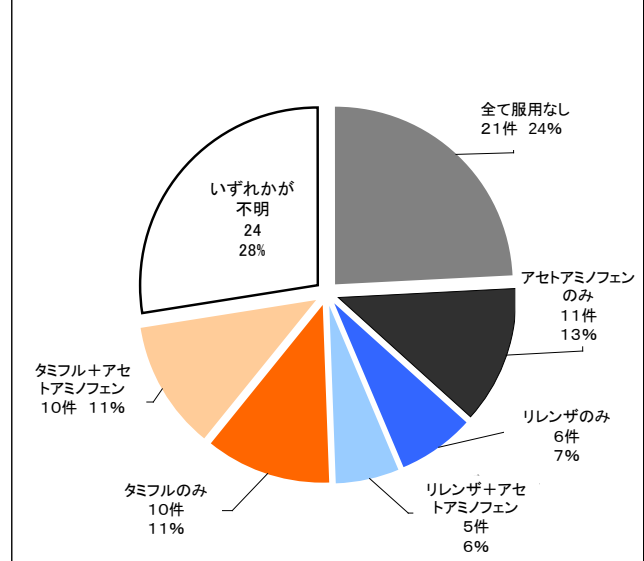
2006/2007 n=72



2007/2008 n=41



2008/2009 n=87



2009/2010 n=136

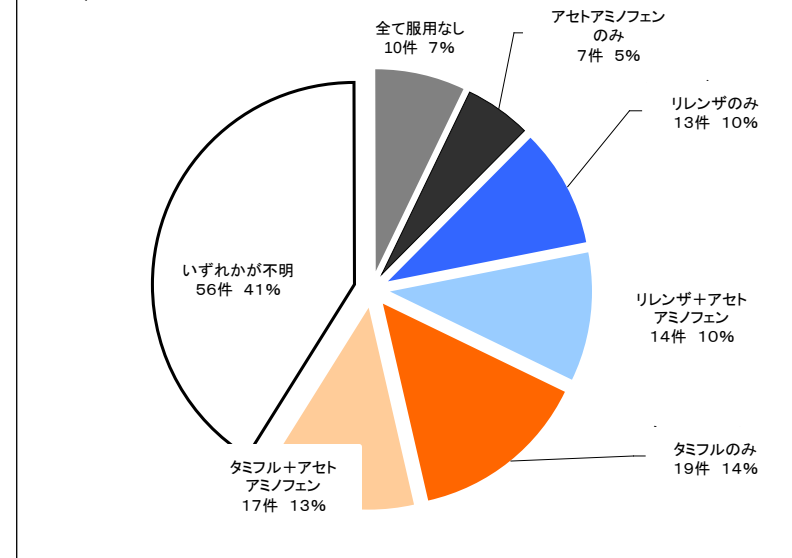


図18-2.薬の組み合わせ

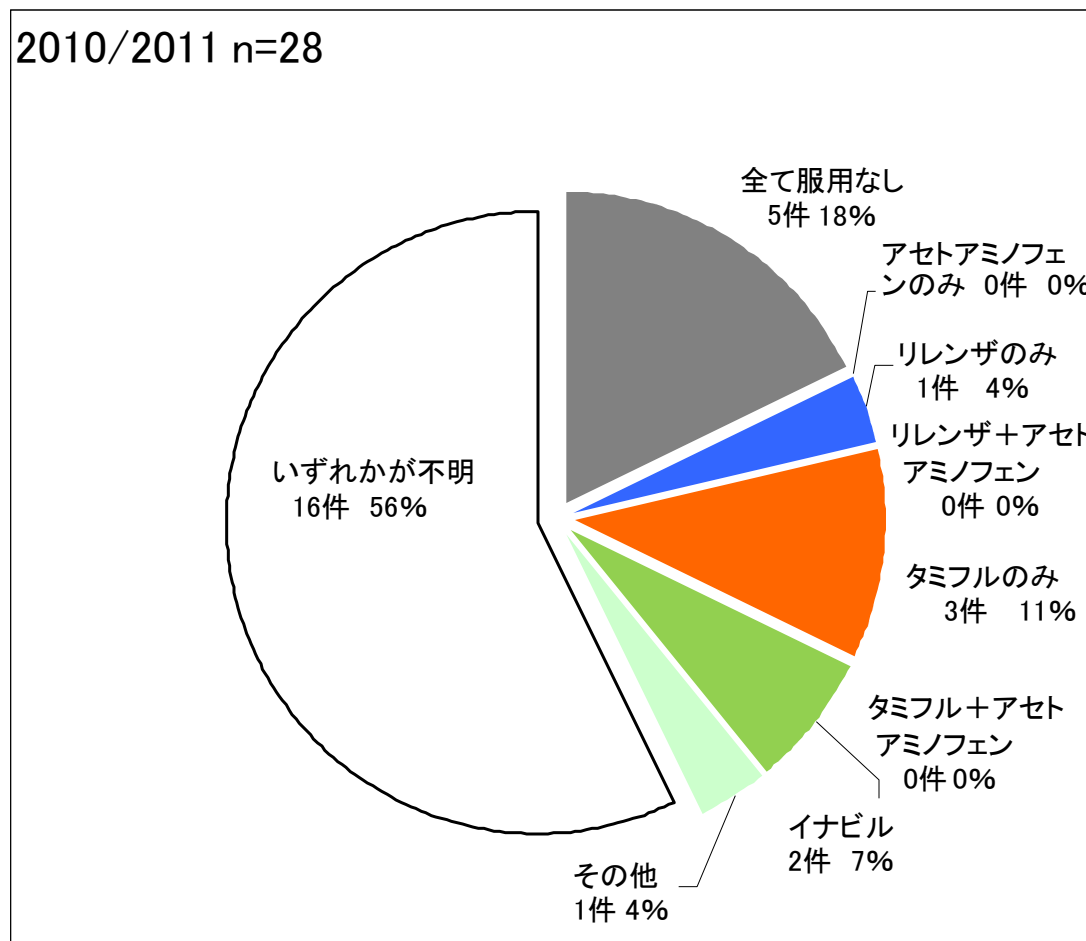
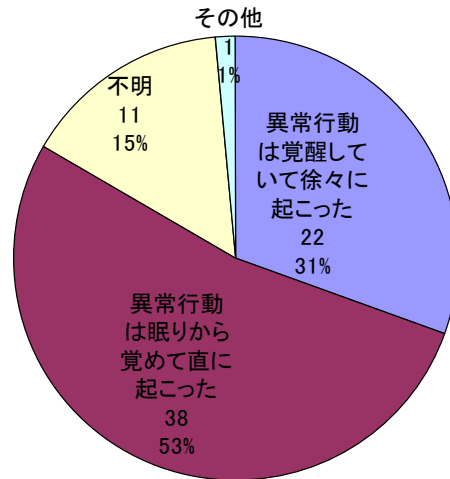
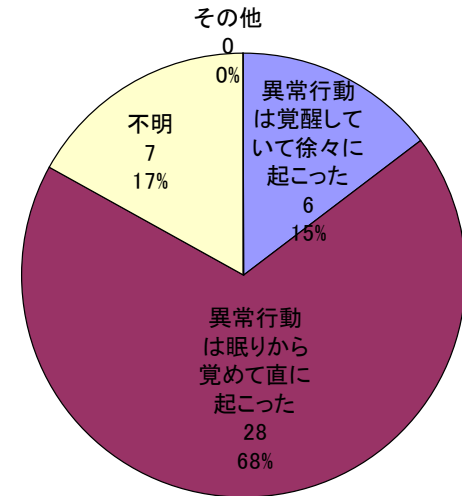


図19-1.異常行動と睡眠の関係

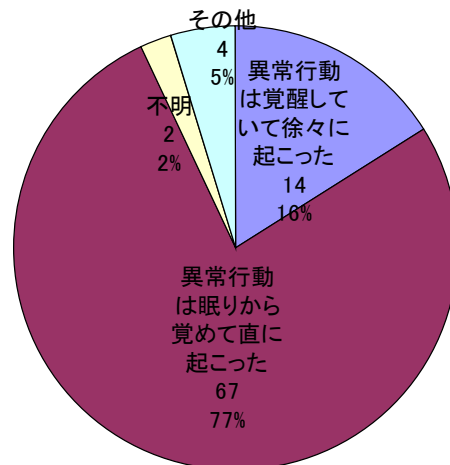
2006/2007 n=72



2007/2008 n=41



2008/2009 n=87



2009/2010 n=136

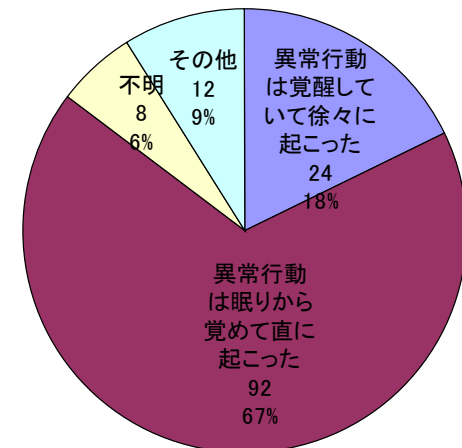
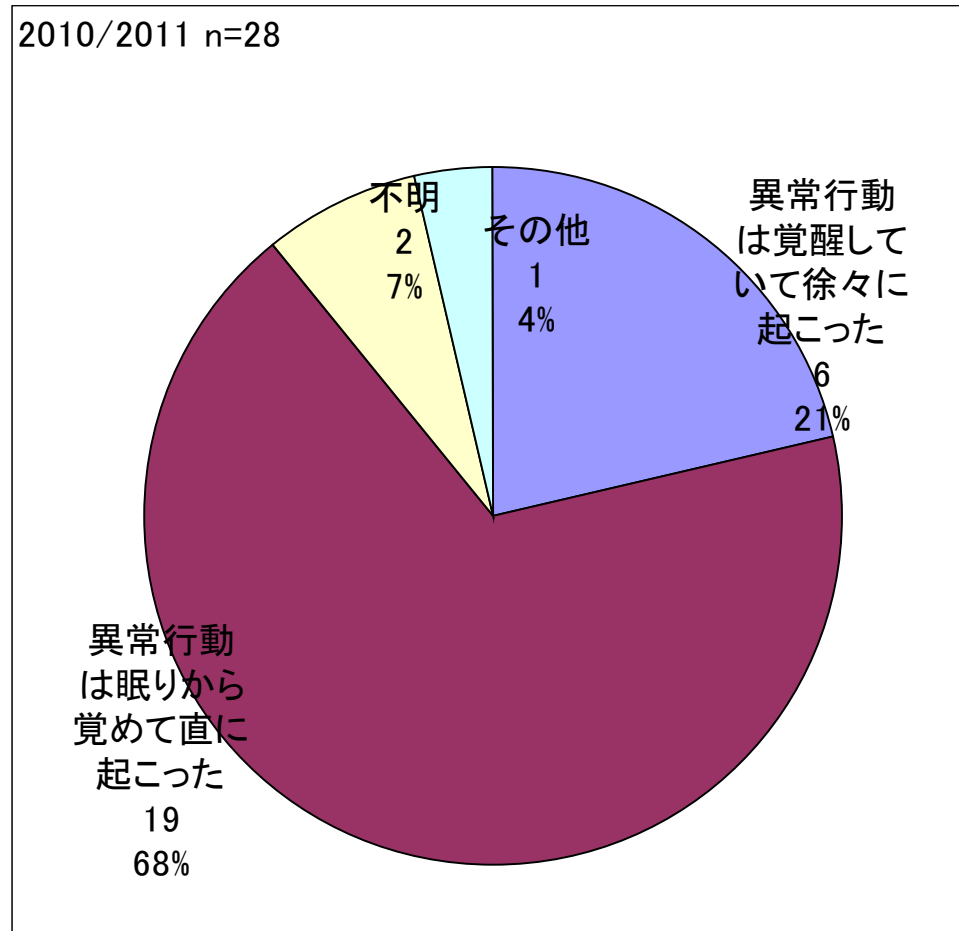


図19-2.異常行動と睡眠の関係



まとめ

- 2010/2011シーズンのインフルエンザ流行は2009年の新型インフルエンザほどには大規模でなかったこともあり、この5年間では重度の異常行動の報告数は最も少なかった。
- しかしながら異常行動の報告数は、インフルエンザ患者の発生状況とほぼ同様に推移しており、一定の確率で発生していることが推測される。
- 2010/2011シーズンの報告状況について、従来の季節性インフルエンザにおける異常行動の報告状況に概ね類似している。
- 年齢が9才が中央値で、男性の方が4分の3を占めた。
- 薬剤の使用状況に関しては、抗インフルエンザ薬を服用していない者にも異常行動が認められるとともに、タミフル、リレンザ服用者の他、2010/2011から使用されたイナビル服用後の異常行動も確認された。
- 突然の走りだし・飛び降りに限定すると、タミフル服用後3名、イナビル服用後2名、リレンザ服用後1名であり、いずれの抗インフルエンザ薬服用者でも認められた。
- したがって、これまで同様に、異常行動は、抗ウイルス薬の種類と特定の関係に限られるものではないと考えられた。

まとめ（つづき）

- 以上のインフルエンザ罹患者における異常行動の収集・評価の結果を踏まえ、異常行動による重大な転帰の発生を抑止するために、引き続き次の対応が必要と考える。
- 抗インフルエンザウイルス薬の処方の有無にかかわらず、インフルエンザ発症後の異常行動に関する注意喚起を行うこと
 - インフルエンザ罹患者における異常行動の収集・評価を継続して行うこと。